

太宰府市の地域福祉に関する
アンケート調査
結果報告書

令和8年3月
太宰府市

目 次

I アンケート調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査概要.....	1
3 回収結果.....	1
4 報告書の見方.....	1
II アンケート調査結果.....	2
1 あなたご自身について.....	2
2 「福祉」について.....	6
3 地域での生活について.....	9
4 地域活動やボランティア活動について.....	22
5 福祉サービスについて.....	31
6 相談について.....	40
7 これからの福祉のあり方について.....	44
8 生活困窮者支援・ひきこもりについて.....	49
9 成年後見制度について.....	52
10 再犯防止について.....	55

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、地域での支えあい、助け合いによる福祉（地域福祉）の推進を目的とした「第5次太宰府市地域福祉計画」の策定のために、市民の皆さまの「地域福祉」に関するご意見をお聴きすることを目的として実施しました。

2 調査概要

- ◇調査対象者：市内在住の18歳以上の方（無作為抽出）
- ◇調査期間：令和7年12月23日（火）～令和8年1月16日（金）
- ◇調査方法：郵送配布・郵送回収・Webによる本人回答方式

3 回収結果

- ◇配布数：1,500件
- ◇有効回収数：795件
- ◇有効回収率：53.0%

4 報告書の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇本文中の前回調査とは、令和2年度に実施した「太宰府市の地域福祉に関する市民アンケート」を指します。

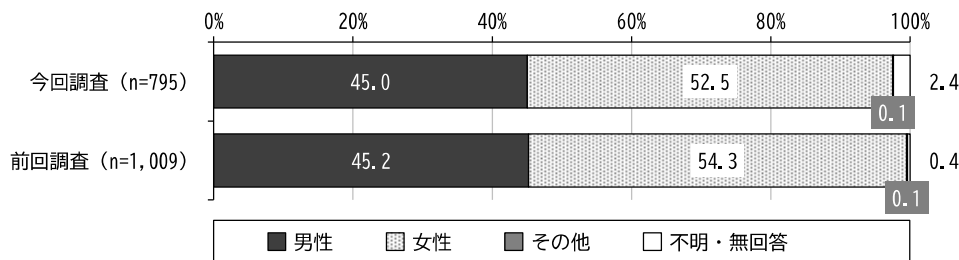
II アンケート調査結果

1 あなたご自身について

○ あなたの性別をお選びください。（単数回答、その他は自由記述）

性別についてみると、「女性」が52.5%と最も高く、次いで「男性」が45.0%、「その他」が0.1%となっています。

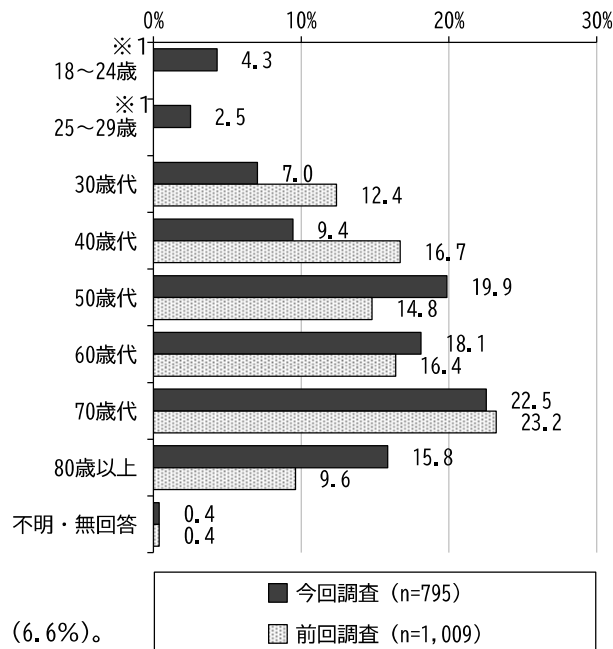
前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



○ あなたの年齢をお選びください。（単数回答）

年齢についてみると、「70 歳代」が22.5%と最も高く、次いで「50 歳代」が19.9%、「60 歳代」が18.1%となっています。

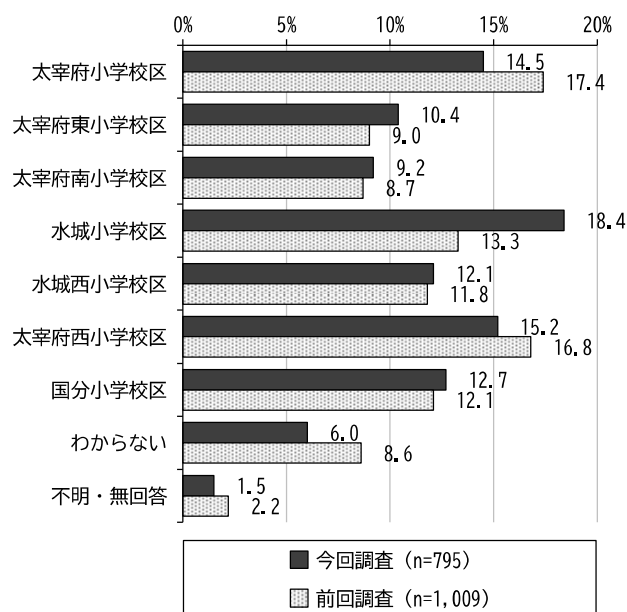
前回調査と比較すると、「50 歳代」が5.1ポイント、「80 歳以上」が6.2ポイント増加、「30 歳代」が5.4ポイント、「40 歳代」が7.3ポイント減少しています。



※1 前回調査では「20 歳代」(6.6%)。

○ あなたが住んでいる小学校区はどちらですか。（単数回答）

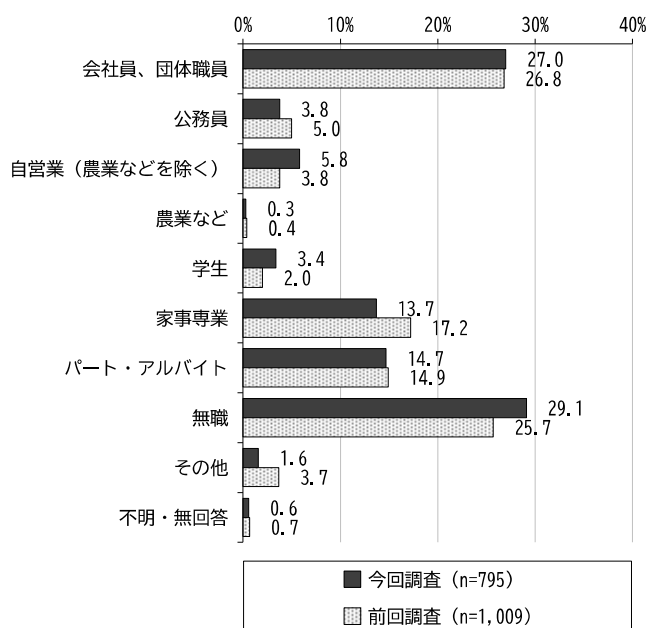
住んでいる小学校区についてみると、「水城小学校区」が18.4%と最も高く、次いで「太宰府西小学校区」が15.2%、「太宰府小学校区」が14.5%となっています。前回調査と比較すると、「水城小学校区」が5.1ポイント増加しています。



○ あなたの主な職業をお選びください。(単数回答)

主な職業についてみると、「無職」が29.1%と最も高く、次いで「会社員、団体職員」が27.0%、「パート・アルバイト」が14.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



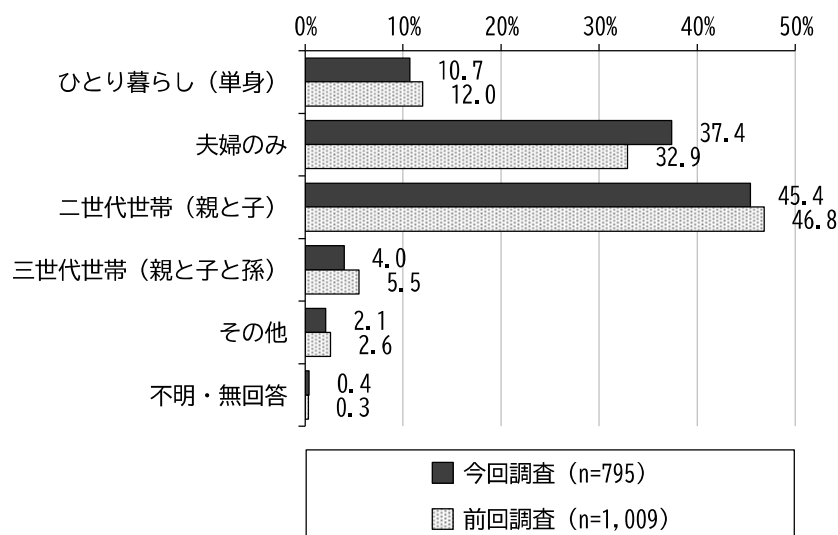
【その他回答】

- ・年金生活者（2件）
- ・会社役員
- ・介護職員
- ・派遣社員
- ・保育園の栄養士
- ・soho
- ・社外取締役
- ・母の介護に通いながら時々アルバイト

○ あなたの家族構成はどのようになっていますか。（単数回答）

家族構成についてみると、「二世世代世帯（親と子）」が45.4%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が37.4%、「ひとり暮らし（単身）」が10.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



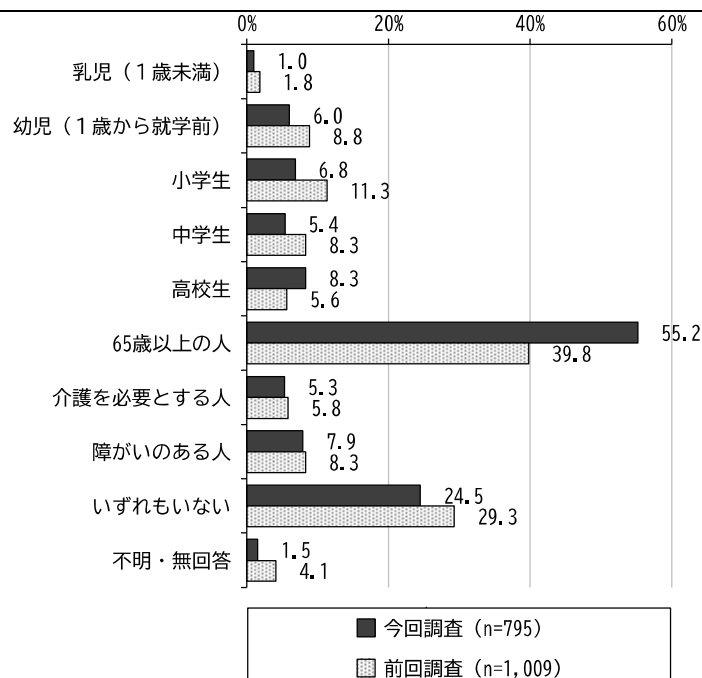
【その他回答】

- ・グループホーム（2件）
- ・同棲（2件）
- ・夫婦と子（2件）
- ・弟と同居
- ・特別養護老人ホーム
- ・夫婦と子供
- ・パートナーと子供の3人

○ あなたが現在一緒に住んでいるご家族のなかに、つぎのような人（あなた自身も含みます）はいますか。（複数回答）

家族につぎのような人はいるかについてみると、「65歳以上の人」が55.2%と最も高く、次いで「いずれもいない」が24.5%、「高校生」が8.3%となっています。

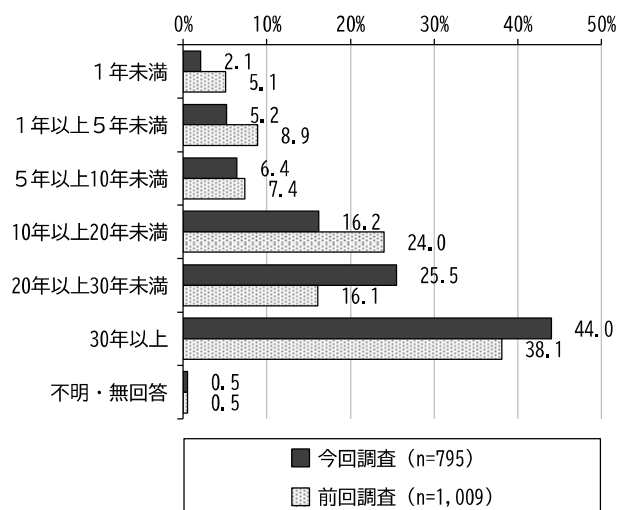
前回調査と比較すると、「65歳以上の人」が15.4ポイント増加しています。



○ あなたは太宰府市に住んで何年になりますか。（単数回答）

太宰府市に住んでいる年数についてみると、「30 年以上」が 44.0%と最も高く、次いで「20 年以上 30 年未満」が 25.5%、「10 年以上 20 年未満」が 16.2%となっています。

前回調査と比較すると、「20 年以上 30 年未満」が 9.4 ポイント、「30 年以上」が 5.9 ポイント増加、「10 年以上 20 年未満」が 7.8 ポイント減少しています。

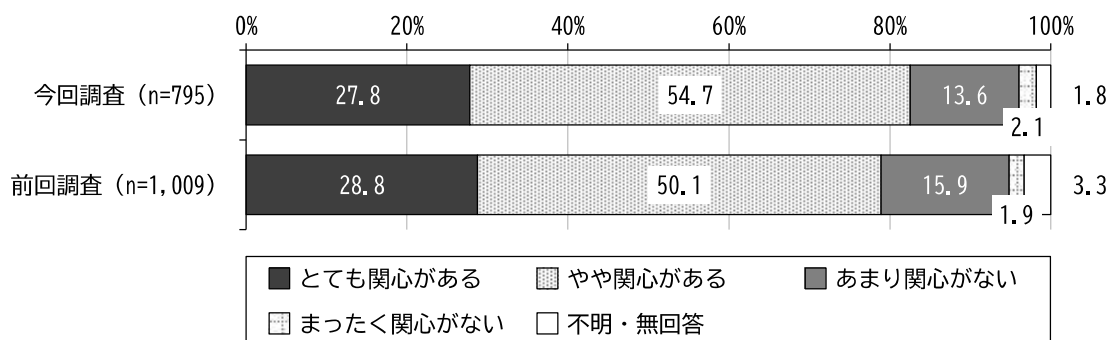


2 「福祉」について

問1 あなたは「福祉」に関心をお持ちですか。（単数回答）

「福祉」の関心度についてみると、「やや関心がある」が54.7%と最も高く、次いで「とても関心がある」が27.8%、「あまり関心がない」が13.6%となっています。

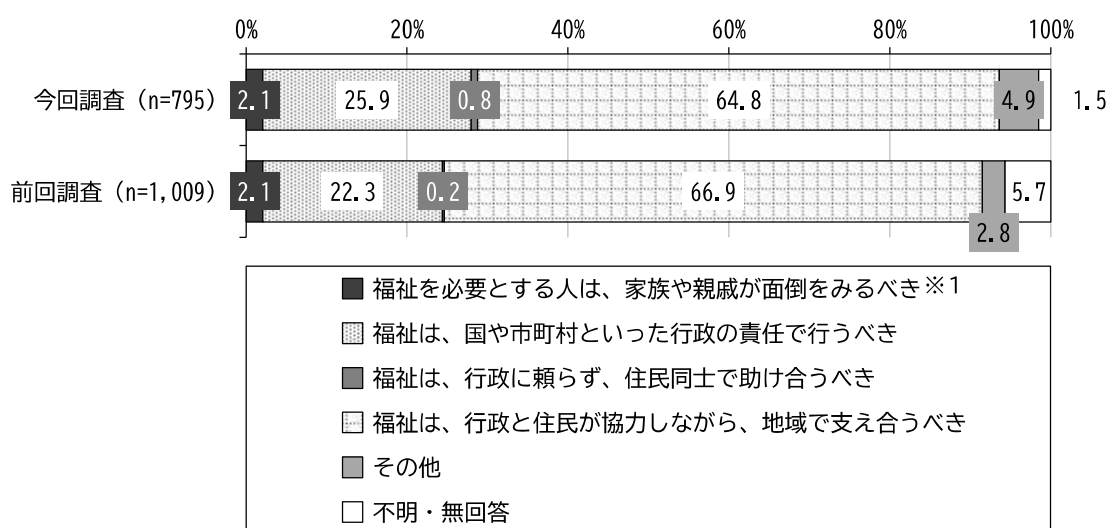
前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



問2 これからの「福祉」のあり方は、どのようなべきだと思いますか。（単数回答）

あるべきだと思う「福祉」のあり方についてみると、「福祉は、行政と住民が協力しながら、地域で支え合うべき」が64.8%と最も高く、次いで「福祉は、国や市町村といった行政の責任で行うべき」が25.9%、「その他」が4.9%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



※1 前回調査では「福祉を必要とする人は、家族や親戚が面倒をみればよい」。

【その他回答】

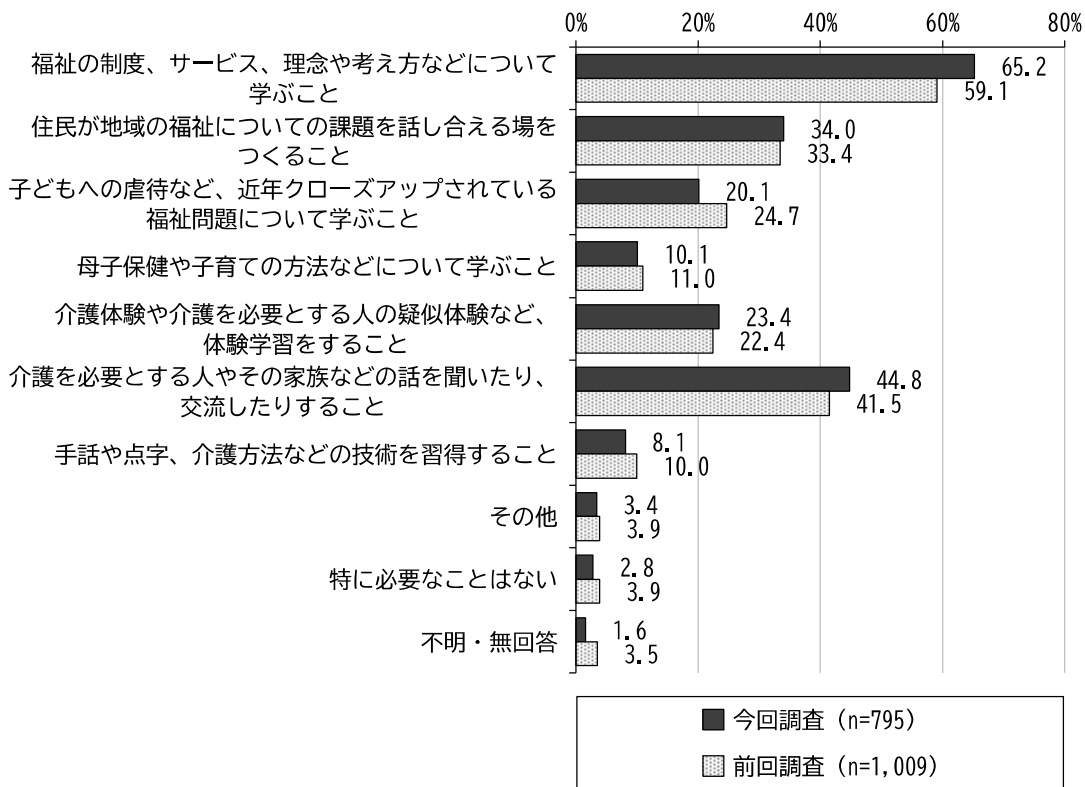
- ・ わからない（3件）
- ・ 行政がするすべてが必要最小限
- ・ 行政と家族と地域で支え合うべき
- ・ 全員で助け合えたらよい
- ・ 家族、行政、地域、できる人で協力
- ・ 難しい問題だと思う

- ・地域でも難しいことがある
- ・家族、行政、住民、皆で
- ・民間に委託してもいいと思う
- ・4を支持するが、地域の高齢化で行政への依存への思いが強くなっている
- ・原則的に①だが、よりわかりやすい制度と行政のサポートが必要
- ・行政に頼りながら家族はできる範囲で生活する
- ・4番が望ましいが、周りの人々はほぼ高齢者。どう問題を乗り越えていけばよいか悩む。私自身も翌月には入院手術予定。周りには迷惑をかけないようにとの思いでいっぱい
- ・自治体から予算を出していただき活動は行政と住民が協力してやる
- ・基本は①だが、それができない人のためのセーフティネットとして地域や行政がサポートしてくれるといいと思う
- ・家族、行政（国、市町村）、民間、必要に応じて
- ・④+民間サービス（企業）の力も借りたらよいと思う
- ・家族では補えない時の手助けを行政にお願いしたいです。
- ・「べき」という思考は、義務感や強制を伴うと考えられるので、答えにくい選択です。ルールに則った行政の支援のみでは足りない、親族のみでは共倒れや虐待の危険、ご近所だからこそ介入出来ない面もあります。必要な時に必要な支援を得られる事が理想です。
- ・べき、と決めずに色々な選択肢があって状況に合わせて選べたらいいと思う
- ・基本的には福祉を必要とする人は、家族から支えてもらいたいと思ってると思いますが、全部を家族が負担するのはしんどくなるので、行政や地域が支えを必要とするときにはいつでもサポートしますという姿勢でいてくれると助かると思う。
- ・行政の協力や責任は言うまでもなく当たり前のことであり、地域住民の協力や情報共有は必要不可欠である。
- ・行政の責任にて行うべき。しかしながら社団法人や人権擁護関連のコンサルタントは一切不用である。

問3 あなたは、住民が福祉について理解を深めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで複数回答）

住民が福祉について理解を深めるために必要なことについてみると、「福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと」が65.2%と最も高く、次いで「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること」が44.8%、「住民が地域の福祉についての課題を話し合える場をつくること」が34.0%となっています。

前回調査と比較すると、「福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと」が6.1ポイント増加しています。



【その他回答】

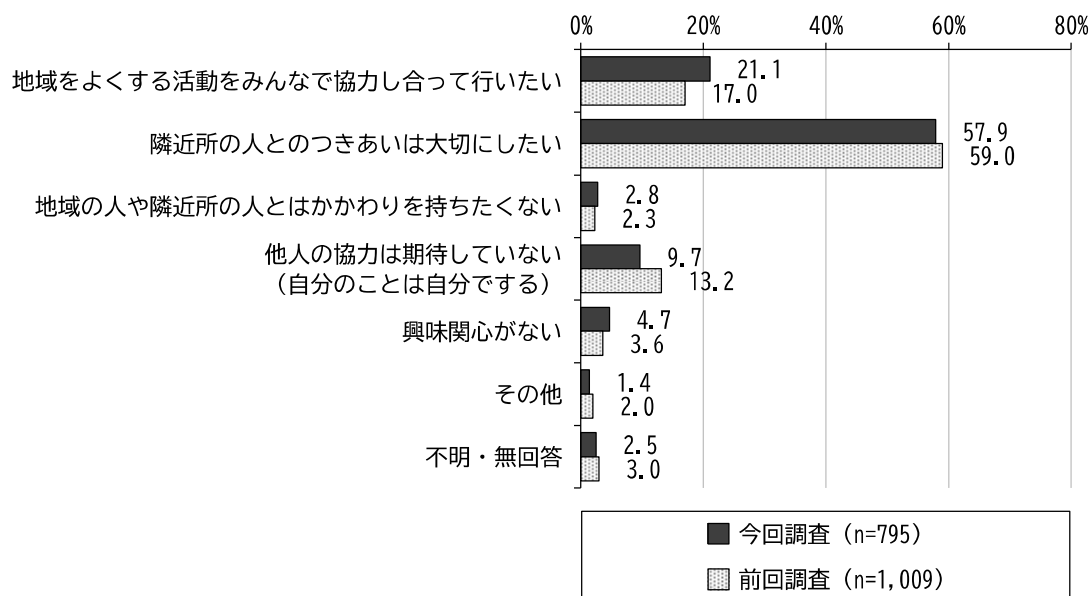
- ・ わからない（2件）
- ・ プライバシー問題がある（経験あり）
- ・ 行政が周知すること
- ・ 良く分からない
- ・ 理解を求めるのは難しい。当事者にならないと理解はできない
- ・ 私たちひとりひとりが福祉の制度を変えることができることを実感できる社会になること
- ・ 制度、サービス、学ぶ必要があるがネットで学べる
- ・ 簡単な方法で福祉について知る機会が増えること
- ・ LINE、自治会 SNS で福祉に関する豆知識を配信する
- ・ 必要なときに「このような方法がありますよ」と状況に合わせて教えていただける窓口
- ・ 人には話にくい障がいについても理解を深めてほしい
- ・ 行政、サービス事業所等提供事業所との協力関係、学び、話し合える場が必要
- ・ 福祉は学ぶ、理解するものではなく、自治体や行政が住民が困ったときに手を差し伸べるもの
- ・ 福祉のサービスなど制度がわかりにくいし、利用しづらい
- ・ 不登校、ひきこもりなどその他気軽に相談できる窓口
- ・ 遠方に父母がおりますが、介護に関することを勉強しておきたい
- ・ 家族（兄弟）が次々に看護、介護が必要となっている。何かを学ぶ前に現実の状況、実情が迫ってきている。本当にひとつ家に暮らしている兄弟の子どもたちは苦勞している
- ・ 何かしら必要なことはあると思うが、高齢（97歳）であるので深く考えることができない
- ・ 福祉を必要とする人の背景を知り、自己責任の考えを和らげ思いやりの心を育む教育を実施する
- ・ どんな福祉のサービスがあるか、もっとピアーアルもしてほしい

3 地域での生活について

問4 地域での人と人とのかかわりについて、あなたのお考えに近いものをお選びください。（単数回答）

地域での人と人とのかかわりへの考えについてみると、「隣近所の人とのつきあいは大切にしたい」が57.9%と最も高く、次いで「地域をよくする活動をみんなで協力し合って行いたい」が21.1%、「他人の協力は期待していない（自分のことは自分です）」が9.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



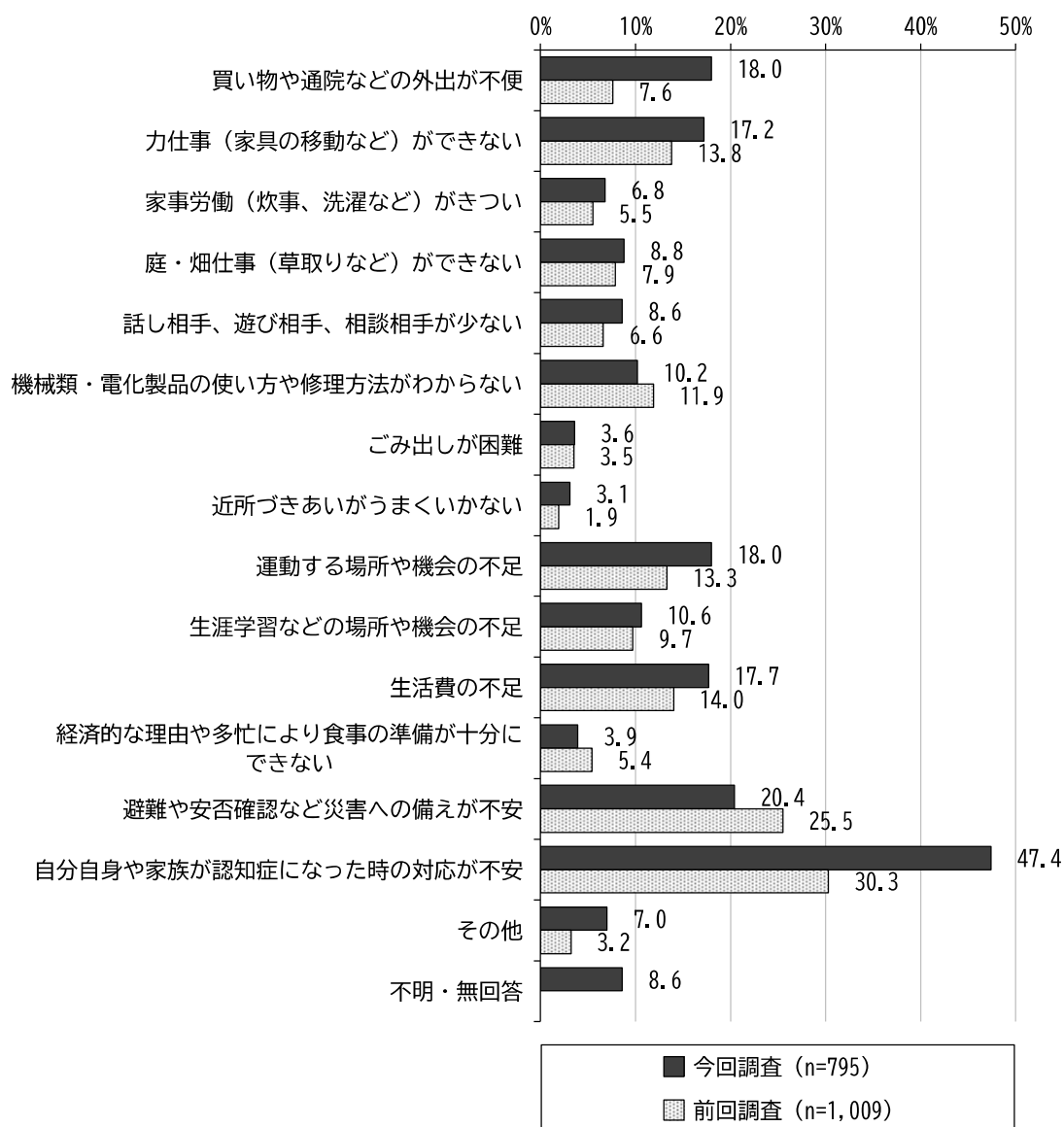
【その他回答】

- ・常識とルールを守ること
- ・時間がないので隣人たちと接する機会がない
- ・従来までとは違う視点が必要
- ・まず差別、いじめ、虐待をなくす
- ・よく分からない
- ・地域でしたい人々がすれば良い。
- ・ほどよい距離感で付き合いたい
- ・皆、自分になってみなければ本当の辛さや困り事や心内はわからないそれぞれの様な福祉が必要なのか、学校に通う頃から知識を入れる必要がある
- ・近すぎず遠すぎず、適度な距離くらいがいいのかもしれない。今の時代、難しい。
- ・ホントが一番だけど、毎日仕事と子供のことであまり時間に余裕がない

問5 日々の暮らしのなかで困っていることをお選びください。（複数回答）

日々の暮らしのなかでの困りごとについてみると、「自分自身や家族が認知症になった時の対応が不安」が47.4%と最も高く、次いで「避難や安否確認など災害への備えが不安」が20.4%、「買い物や通院などの外出が不便」「運動する場所や機会の不足」が18.0%となっています。

前回調査と比較すると、「買い物や通院などの外出が不便」が10.4ポイント、「自分自身や家族が認知症になった時の対応が不安」が17.1ポイント増加、「避難や安否確認など災害への備えが不安」が5.1ポイント減少しています。



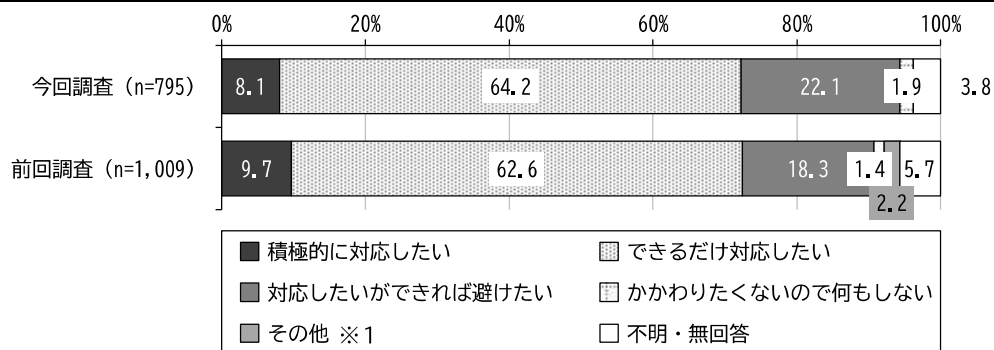
【その他回答】

- ・とくにない（４件）
- ・今はない（２件）
- ・組長制をなくす
- ・自分にぴったりの仕事がみつからない
- ・隣近所に関心がない
- ・女性部長という女性がいて困っている
- ・今のところ困る様な事はない
- ・横断歩道が少なく不便
- ・地区に野良猫に餌を与えている人がおり、我が家が通り道となっているため糞尿や爪とぎで木製の玄関、柱、植木がボロボロ、鳴き声で夜もうるさい時がある。餌を与え続けるので新しい野良猫が入れ替わり減ることはないので困っている。迷惑で苦情を言ったら逆ギレされて怖い
- ・大学生等いるときは食費・学費その他のやりくりが厳しかった
- ・自身が体調を崩したときの子の世話が不安。実際に困ったことがある。
- ・まほろば号や今まであったバスのコースの本数が少なくなったこと
- ・（現状）特に困っていない（２件）
- ・公共交通機関の利便性
- ・スマホ、タブレットのトラブル対応相談の場がほしい
- ・墓掃除（山中）
- ・あてはまるものはない！
- ・日用品、食品を購入する店が自宅周辺にない
- ・買い物ができる店が充実していない

問6 日々の暮らしのなかで困りごとを抱える人から助けを求められた時、あなた自身はどう対応したいと思いますか。（単数回答）

日々の暮らしのなかで困りごとを抱える人から助けを求められた時の対応についてみると、「できるだけ対応したい」が64.2%と最も高く、次いで「対応したいができれば避けたい」が22.1%、「積極的に対応したい」が8.1%となっています。

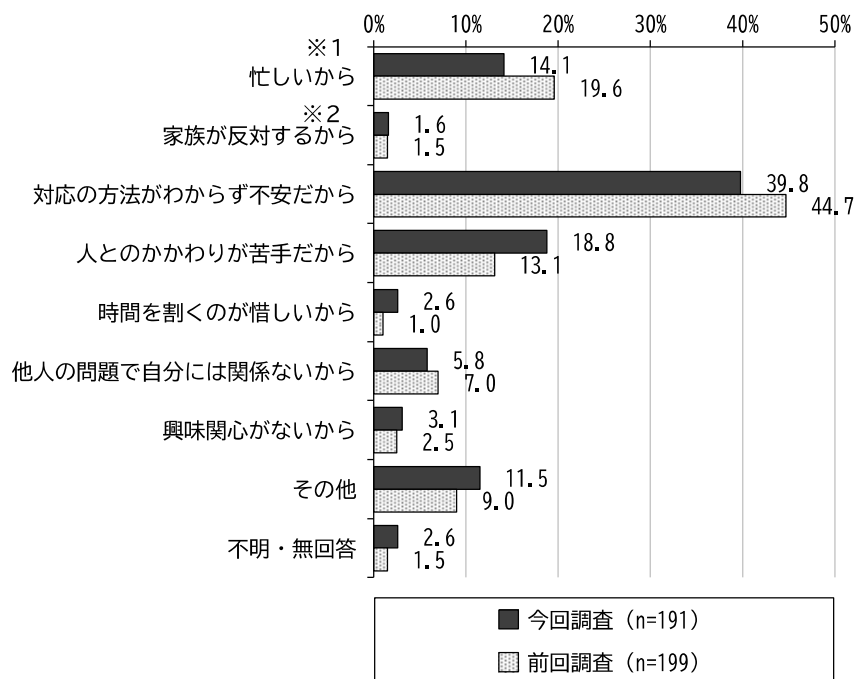
前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



問6で「対応したいができれば避けたい」「かかわりたくないので何もしない」を選択した方のみ
問6-1 そのように考えるのはどのような理由からですか。（単数回答）

そのように考える理由についてみると、「対応の方法がわからず不安だから」が 39.8%と最も高く、次いで「人とのかかわりが苦手だから」が 18.8%、「忙しいから」が 14.1%となっています。

前回調査と比較すると、「人とのかかわりが苦手だから」が 5.7 ポイント増加、「忙しいから」が 5.5 ポイント減少しています。



※1 前回調査では「対応したいが忙しいから」。

※2 前回調査では「対応したいが家族が反対するから」。

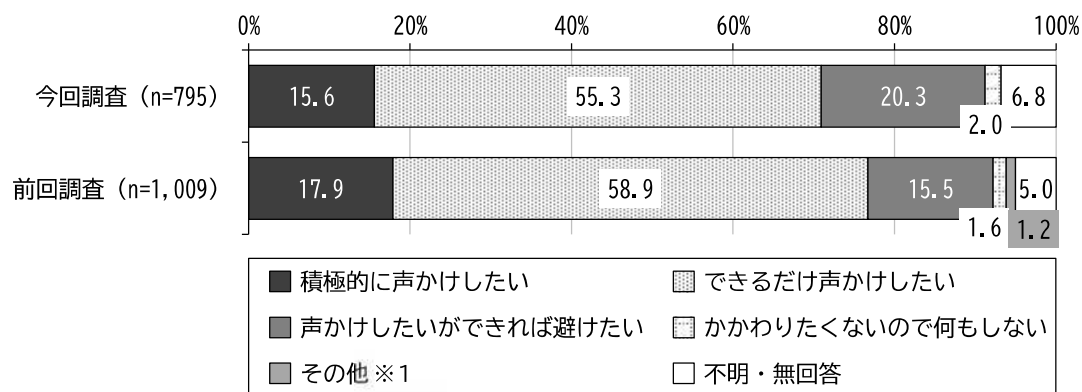
【その他回答】

- ・（自分が）高齢だから（5件）
- ・体が動かないから
- ・体ができない
- ・行政がするべき
- ・内容や相手にもよるが、トラブルになりたくない
- ・体力不足のため
- ・年をとっているので動きが悪い
- ・できないから
- ・体力の問題
- ・高齢で対応は無理
- ・自分と家族の事でいっぱい
- ・我が子の子育てでいっぱい
- ・難聴、骨折経験ありの 97 歳で、デイサービス・デイケア以外の外出はできないので間の状況に遭遇すること自体ありえない

問7 認知症と思われる人がまちなかで戸惑っている様子を見かけた時、あなた自身はどのように対応したいと思いますか。（単数回答）

認知症と思われる人にどのように対応したいかについてみると、「できるだけ声かけしたい」が55.3%と最も高く、次いで「声かけしたいができれば避けたい」が20.3%、「積極的に声かけしたい」が15.6%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

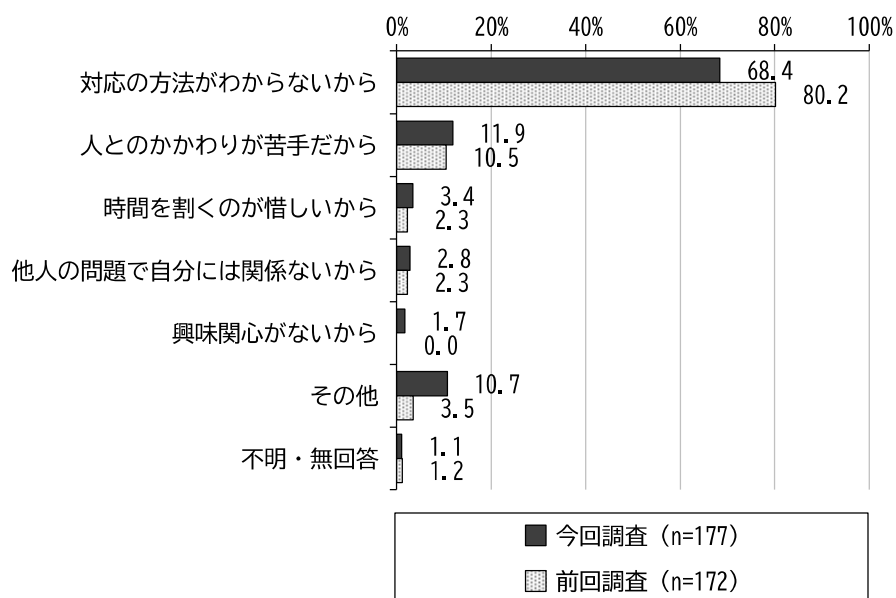


※1 前回調査のみの選択肢。

問7で「声かけしたいができれば避けたい」「かかわりたくないので何もしない」を選択した方のみ
問7-1 そのように考えるのはどのような理由からですか。（単数回答）

そのように考える理由についてみると、「対応の方法がわからないから」が68.4%と最も高く、次いで「人とのかかわりが苦手だから」が11.9%、「その他」が10.7%となっています。

前回調査と比較すると、「対応の方法がわからないから」が11.8ポイント減少しています。



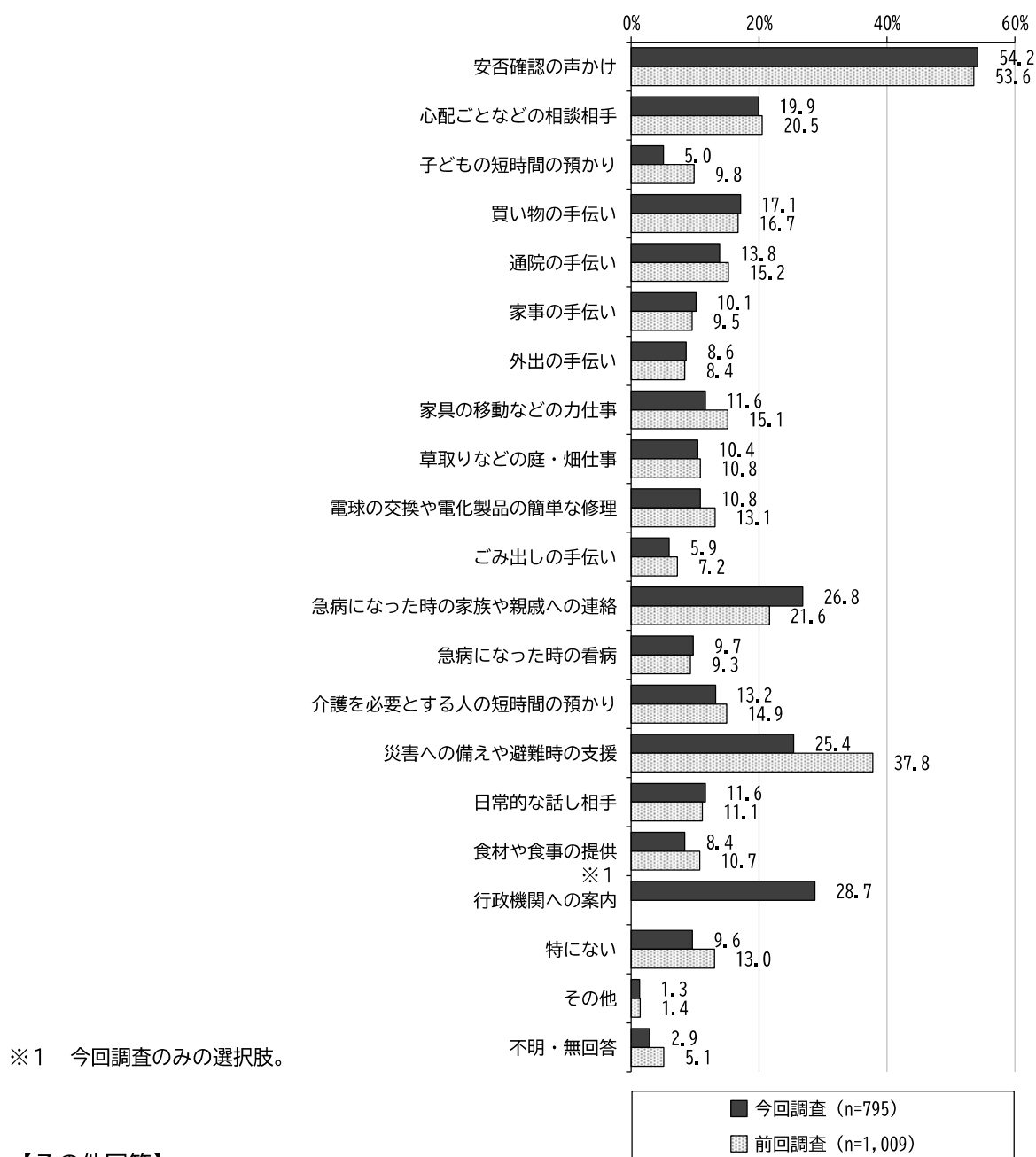
【その他回答】

- ・緊急であれば行政等に連絡する
- ・危険を感じる
- ・交番の人に伝える
- ・トラブルになりたくない
- ・違う可能性があり、失礼になると考えるから
- ・認知症かどうか判断がつかない
- ・誰（相談する人）に言えばいいのかわからない
- ・自分ではできないから
- ・自分の体がよくない
- ・自分の体。右半身マヒのため
- ・高齢で何もできない、してあげられない
- ・責任が重いので通報して助けを求める
- ・認知症の症状による攻撃性を恐れているから
- ・危なくないか、危険の方が気になる
- ・怒鳴られて暴力をふるわれそうになったことがあるので自衛のため関わらないようにしている
- ・何かを疑われそう、突然の暴力などで自身が負傷しそうで怖い
- ・対応中に転倒されたり怪我されたりした時に責任の所在を問われたら困るから
- ・難聴、骨折経験ありの97歳で、デイサービス・デイケア以外の外出はできないので問の状況に遭遇すること自体ありえない

問8 あなたやご家族に助けが必要になった時、地域の人たちにどのような支援をしてほしいと思いますか。（複数回答）

あなたや家族に助けが必要になった時、地域の人たちにしてほしい支援についてみると、「安否確認の声かけ」が54.2%と最も高く、次いで「行政機関への案内」が28.7%、「急病になった時の家族や親戚への連絡」が26.8%となっています。

前回調査と比較すると、「急病になった時の家族や親戚への連絡」が5.2ポイント増加、「災害への備えや避難時の支援」が12.4ポイント減少しています。



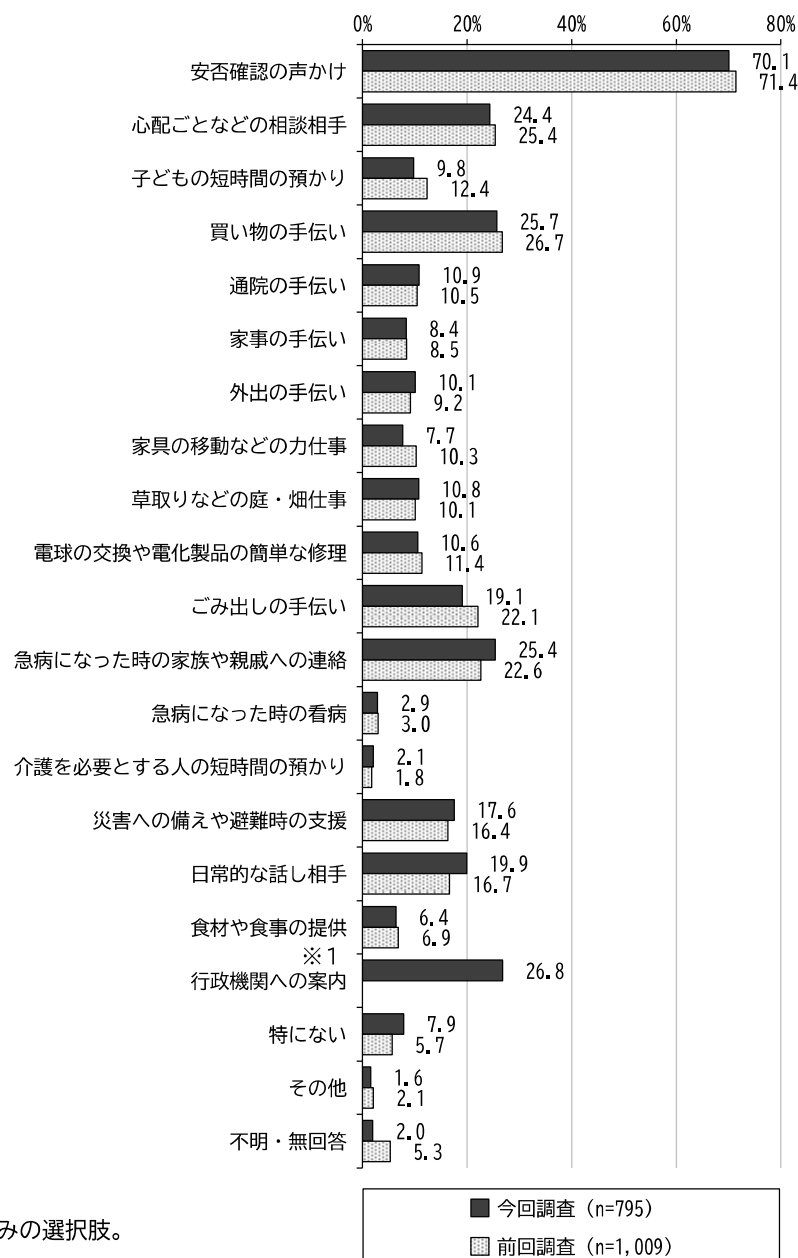
【その他回答】

- ・今のところ夫婦健在
- ・そのときになってみないとわからない
- ・組長や役員等を交代してほしい
- ・行政がやるべき
- ・すべて
- ・救急車や警察を呼んでほしい

問9 あなたの身近なところで、困っている人がいた場合、あなた自身はどのような支援ができますか。（複数回答）

身近なところで困っている人がいた場合にできる支援についてみると、「安否確認の声かけ」が70.1%と最も高く、次いで「行政機関への案内」が26.8%、「買い物の手伝い」が25.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



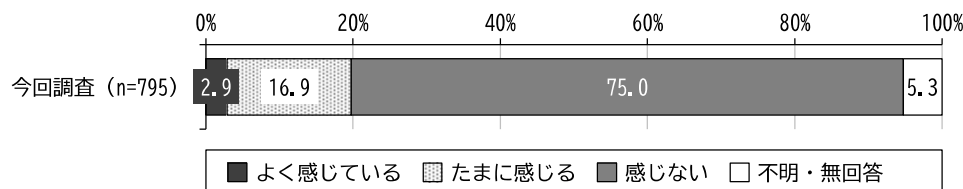
※1 今回調査のみの選択肢。

【その他回答】

- ・身体的にできない
- ・高齢のため支援はできない
- ・行政がすべきこと。他人は関係ない
- ・救急車の要請、警察への相談
- ・できない
- ・結局は想いだけで何もしないと思う。
- ・困っている人の困っていることにできるだけ支援したいと思う
- ・その頃自分のことで精一杯だと思う。何もしてあげることとは無理だろう
- ・したいが自分の仕事と両親の世話で余裕がない

問 10 あなたは「自分は孤独である」「自分は孤立している」と感じることはありますか。
(単数回答)

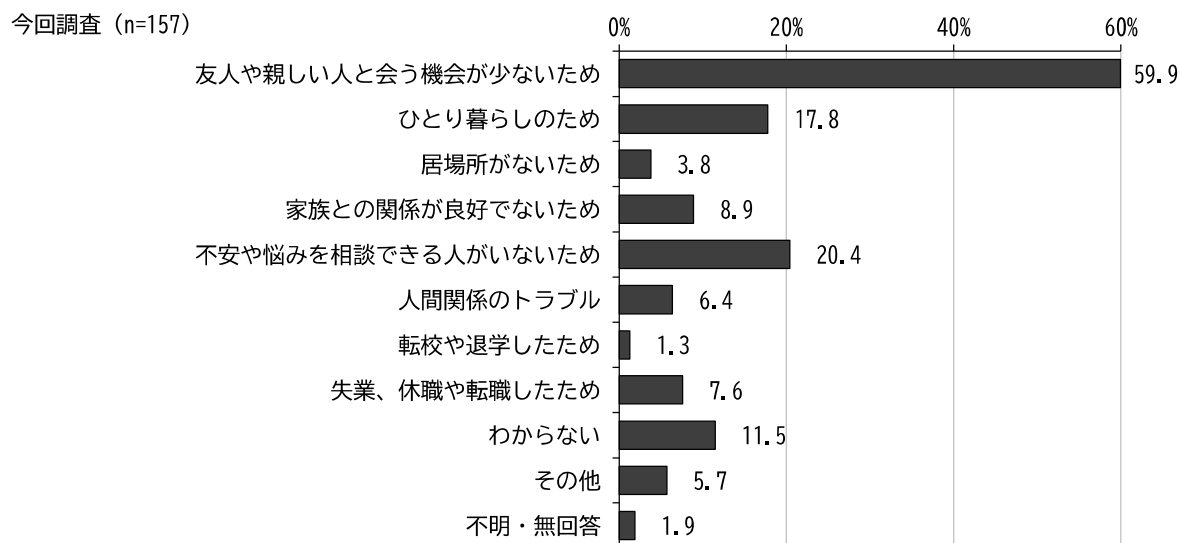
「自分は孤独である」「自分は孤立している」と感じるかについてみると、「感じない」が 75.0%と最も高く、次いで「たまに感じる」が 16.9%、「よく感じている」が 2.9%となっています。



問 10 で「よく感じている」「たまに感じる」を選択した方のみ

問 10-1 「孤独・孤立」を感じる原因は何だと思いますか。(複数回答)

「孤独・孤立」を感じる原因についてみると、「友人や親しい人と会う機会が少ないため」が 59.9%と最も高く、次いで「不安や悩みを相談できる人がいないため」が 20.4%、「ひとり暮らしのため」が 17.8%となっています。



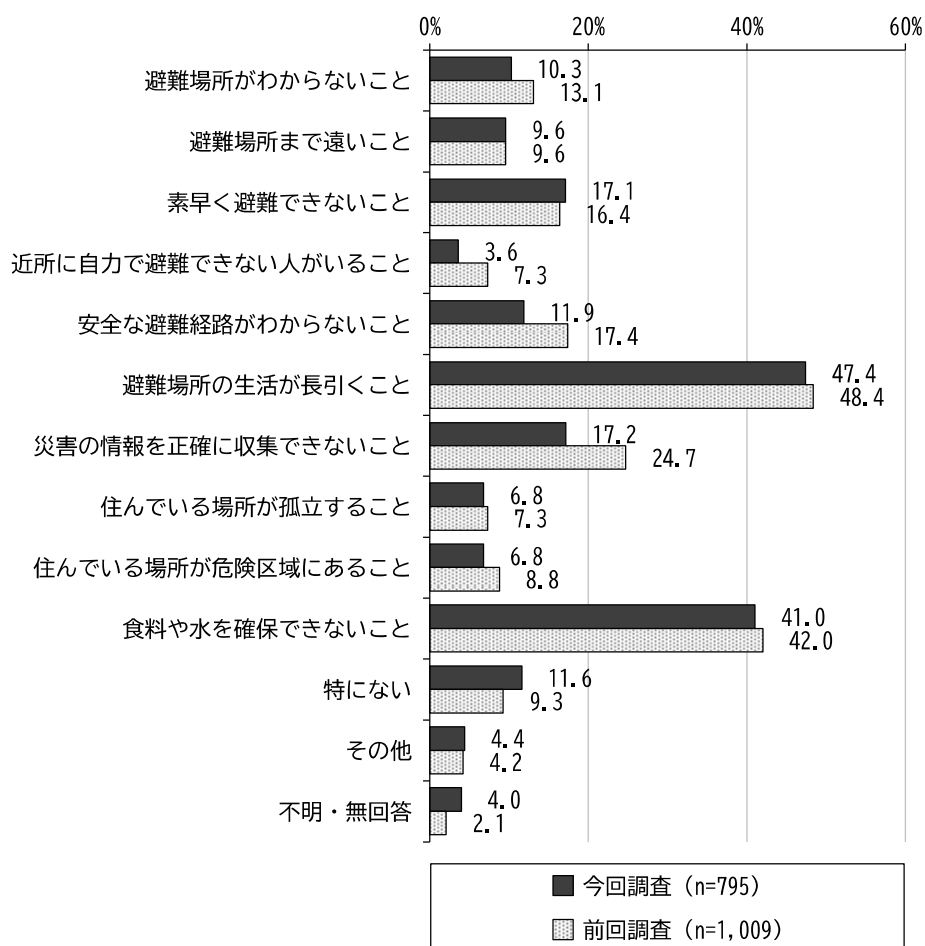
【その他回答】

- ・人の考え方が理解できないとき
- ・仕事を退職したため
- ・人は孤独であるものと考えている
- ・コミュニケーションが苦手
- ・子ども夫婦と同居しているがひとり暮らしと同じのため
- ・「孤独・孤立」を感じるのは人として当たり前のこと。この問いは申し訳ないけど、実にくだらないと思う。
- ・あまり幸せだと感じる事が少なく定期的に気持ちが落ち込む
- ・神を知らないため
- ・人と接しないから
- ・元気でなく、ひとりの時間が長いとき

問 11 あなたは、太宰府市で大災害（地震や台風、土砂災害など）が発生するおそれがある場合、どのようなことが不安ですか。（3つまで複数回答）

太宰府市で大災害が発生するおそれがある場合の不安についてみると、「避難場所の生活が長引くこと」が47.4%と最も高く、次いで「食料や水を確保できないこと」が41.0%、「災害の情報を正確に収集できないこと」が17.2%となっています。

前回調査と比較すると、「安全な避難経路がわからないこと」が5.5ポイント、「災害の情報を正確に収集できないこと」が7.5ポイント減少しています。



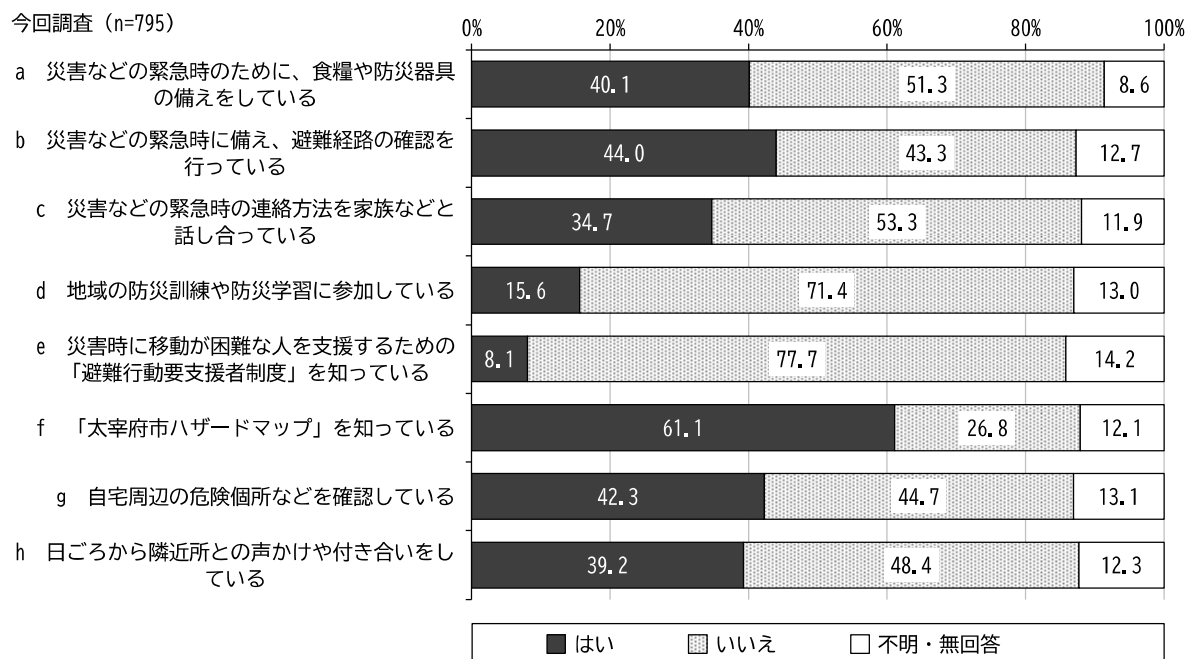
【その他回答】

- ・ペット（犬）のこと（2件）
- ・ペットの安全（2件）
- ・ペットの不安
- ・薬（持病）
- ・病院
- ・プライドの確保困難
- ・歩行困難
- ・高齢であること
- ・避難場所があぶない
- ・避難先のトイレ事情。
- ・長期の場合のプライバシー確保
- ・仕事ができなくなり収入源の確保
- ・猫を飼っているから一緒に避難できるか不安
- ・家族がそれぞれの避難になってしまうのではないかと学校、職場での発生
- ・避難できる施設が少なく、すぐいっぱいになりそうで実際は収容限度で入れない気がする
- ・障がいのある子どもがいる為、避難場所で迷惑をかけないか不安
- ・自分のことより他の地域に介護しないといけいない人が沢山いるからそちらの方が心配。
- ・子供（新生児）のミルクや衛生用品等の取得

- ・近くにペット同伴可能な避難場所、設備があるか不安。
- ・知的障害の息子が周りに迷惑にならない避難場所
- ・透析患者の為、必要な医療や薬などの不安
- ・障害があり車椅子が必要な家族がいるので、エレベーターや階段、薬、食事、水、オムツなどが心配。

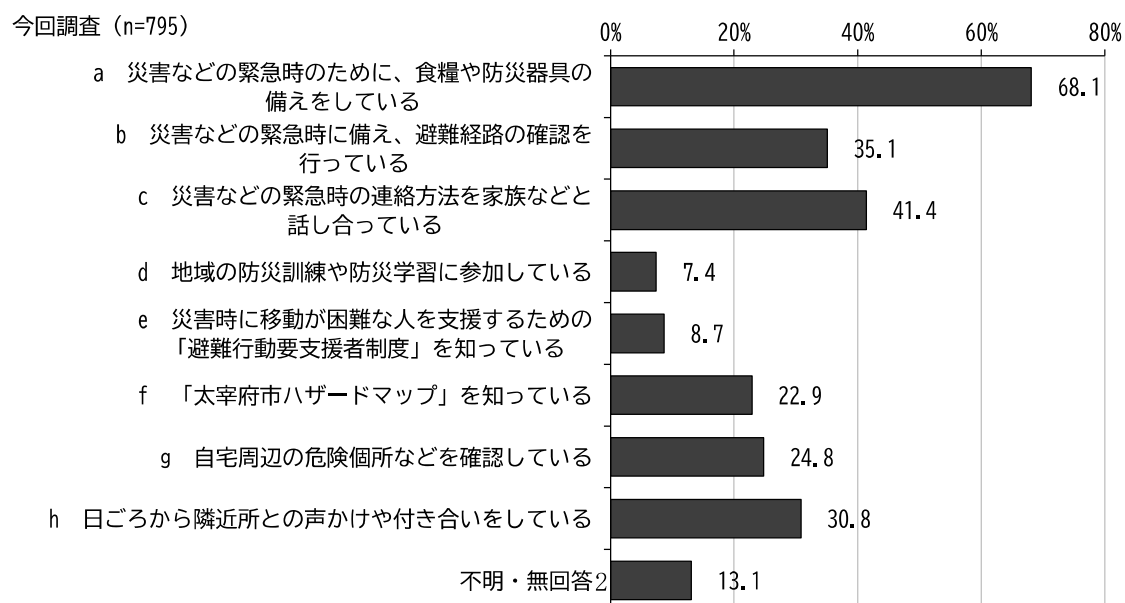
問12 あなたが行っている防災に対する取り組みを教えてください。(それぞれ単数回答)

行っている防災に対する取り組みについてみると、〔b 災害などの緊急時に備え、避難経路の確認を行っている〕〔f 「太宰府市ハザードマップ」を知っている〕では「はい」、その他の項目では「いいえ」が高くなっています。また、〔d 地域の防災訓練や防災学習に参加している〕〔e 災害時に移動が困難な人を支援するための「避難行動要支援者制度」を知っている〕では「いいえ」が7割台と他の項目と比べて高くなっています。



■ 「a」～「h」の取り組みの中で特に重要だと思うものを3つまで記入してください。

特に重要だと思う取り組みについてみると、「a 災害などの緊急時のために、食糧や防災器具の備えをしている」が68.1%と最も高く、次いで「c 災害などの緊急時の連絡方法を家族などと話し合っている」が41.4%、「b 災害などの緊急時に備え、避難経路の確認を行っている」が35.1%となっています。

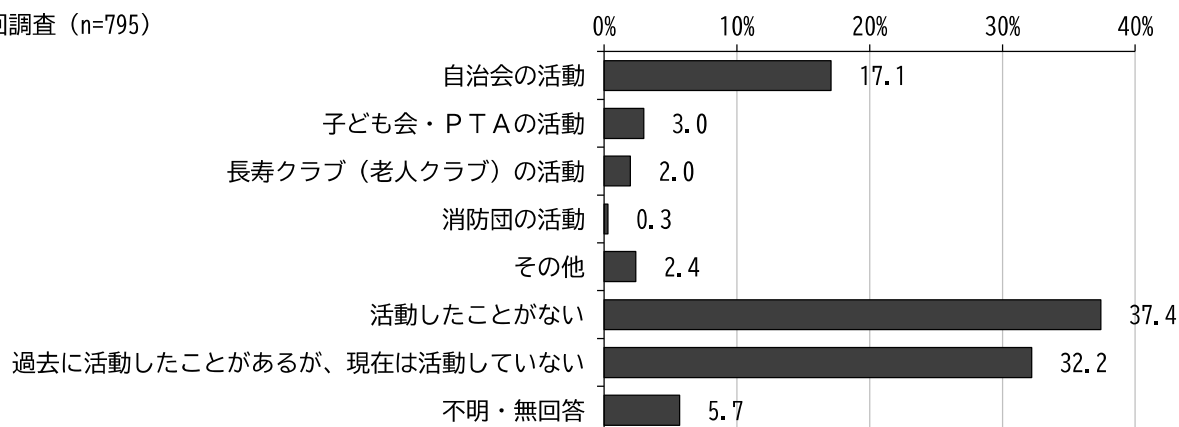


4 地域活動やボランティア活動について

問 13 あなたは現在、以下のような地域活動をしていますか。（単数回答）

地域活動をしているかについてみると、「活動したことがない」が 37.4%と最も高く、次いで「過去に活動したことがあるが、現在は活動していない」が 32.2%、「自治会の活動」が 17.1%となっています。

今回調査（n=795）



【その他回答】

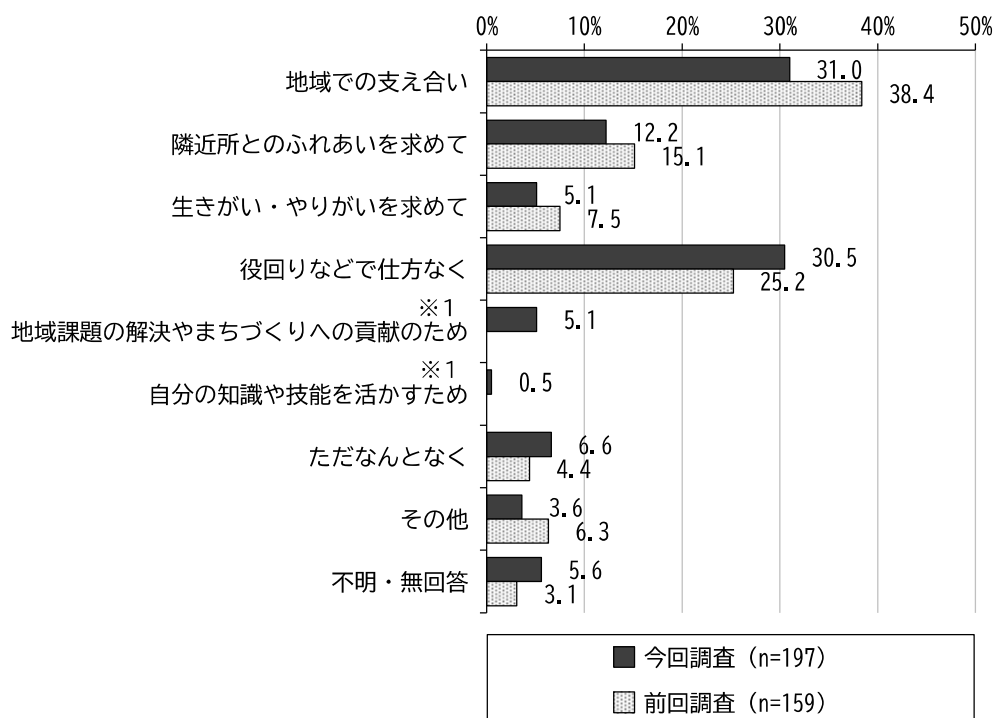
- ・ボランティア活動（2件） ・宗教の伝道 ・仕事帰りに
- ・市民団体活動 ・グラウンドゴルフ ・子ども食堂
- ・地域での卓球活動 ・神社行事 ・子どもの下校時の見守り
- ・地域コーディネータ ・地域のボランティア…ひとりでできる作業が中心
- ・毎月1回のビーチクリーン活動でつながった地域活性化活動のお手伝い

問 13 で「活動したことがない」「過去に活動したことがあるが、現在は活動していない」以外を選択した方のみ

問 13-1 どのような目的で活動していますか。（単数回答）

地域活動をしている目的についてみると、「地域での支え合い」が 31.0%と最も高く、次いで「役回りなどで仕方なく」が 30.5%、「隣近所とのふれあいを求めて」が 12.2%となっています。

前回調査と比較すると、「役回りなどで仕方なく」が 5.3 ポイント増加、「地域での支え合い」が 7.4 ポイント減少しています。



※1 今回調査のみの選択肢。

【その他回答】

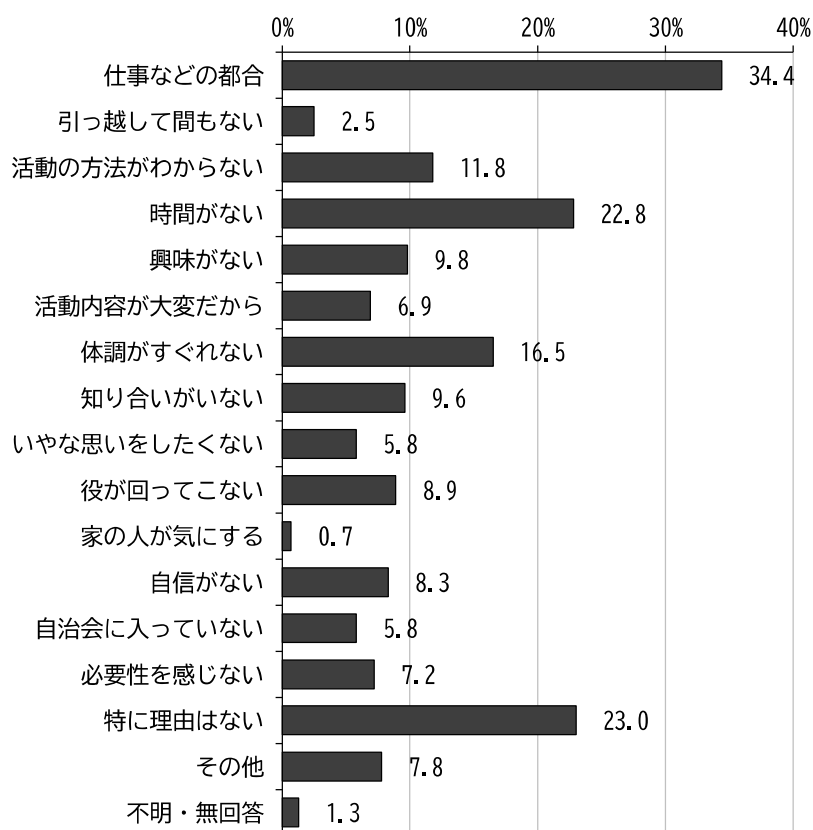
- ・運動不足解消のため
- ・子どもたちのため
- ・児童と地域とを繋いで、関わりを増やす
- ・子供のために
- ・同じ考え方が出来る人達との縁を大事にする為
- 自分の出来る事を自分の出来る範囲で

問 13 で「活動したことがない」「過去に活動したことがあるが、現在は活動していない」を選択した方のみ

問 13-2 現在活動していない理由は何ですか。（複数回答）

地域活動をしていない理由についてみると、「仕事などの都合」が 34.4%と最も高く、次いで「特に理由はない」が 23.0%、「時間がない」が 22.8%となっています。

今回調査（n=553）



【その他回答】

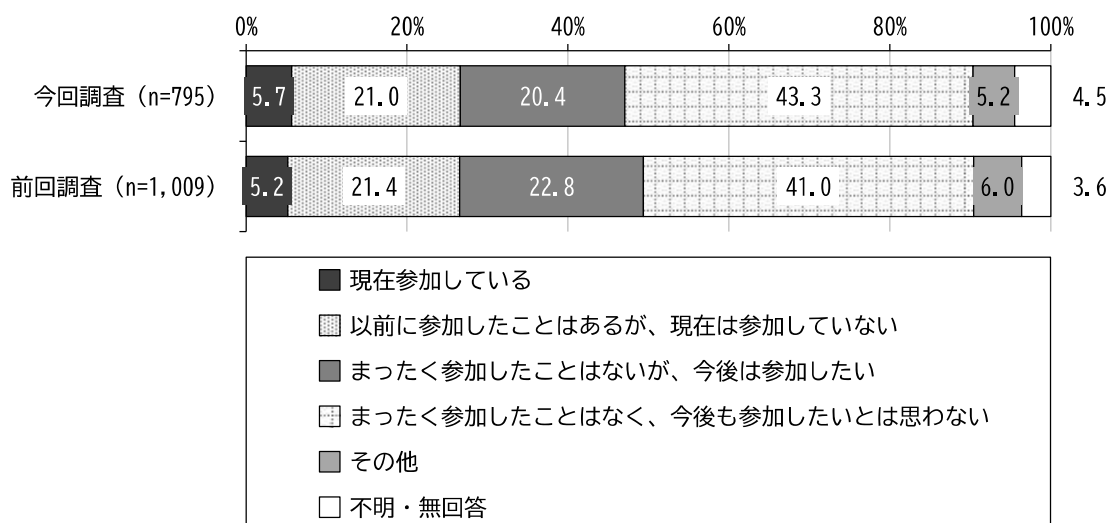
- ・ 高齢（化）だから（4件）
- ・ 家族が自治会に活動している
- ・ 夫が主に活動している
- ・ 体が動かないから
- ・ 病気がある
- ・ 高齢のため活動ができない
- ・ 隣組長は順番のため
- ・ 高齢のため 87 歳
- ・ 病人がいるから
- ・ 高齢者、身体障がい者家族 2 名の世話のため
- ・ 子どもは成人しているしまだ老人ではないから
- ・ 難聴、骨折経験ありの 97 歳には無理
- ・ 越してまもなく、周りに知り合いがいない
- ・ ①残り少ない元気な時間は自分自身のために有効に使いたい②自治会の活動は無駄が多い
- ・ 高齢で活動できない
- ・ 子どもの成長
- ・ 身体不自由
- ・ 年をとり、若い人にまかせている
- ・ 夫が自治会長。そのサポートをしている
- ・ ダメなことをする気はない
- ・ 過去に活動中、嫌なことをされた
- ・ 障がい者がいるため
- ・ 自治会の入り方を知らない
- ・ 年を取りすぎたから
- ・ 高齢で夫の介護をしているため
- ・ 活動内容をよく知らない
- ・ 高齢で活動が困難
- ・ 親がしている。

- ・過去に色々あった方が自治会活動をされているので、関わりたくない
- ・他の地域に介護する人がいて自分の地域のことを考える余裕がない
- ・PTAの活動をしていたけど子供が大きくなったので今はしていない
- ・子ども会に入っていたが、該当年齢の子がいないため。
- ・自治会費を払い、自治体の内輪飲みに消えているようで不愉快でやめてしばらくたつ。

問 14 あなたは、問13のような地域での活動以外に、個人的にボランティア活動やNPOの活動に参加したことがありますか。（単数回答）

問 14 のような地域での活動以外に、個人的にボランティア活動やNPOの活動に参加したことがあるかについてみると、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」が 43.3%と最も高く、次いで「以前に参加したことはあるが、現在は参加していない」が 21.0%、「まったく参加したことはないが、今後は参加したい」が 20.4%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



【その他回答】

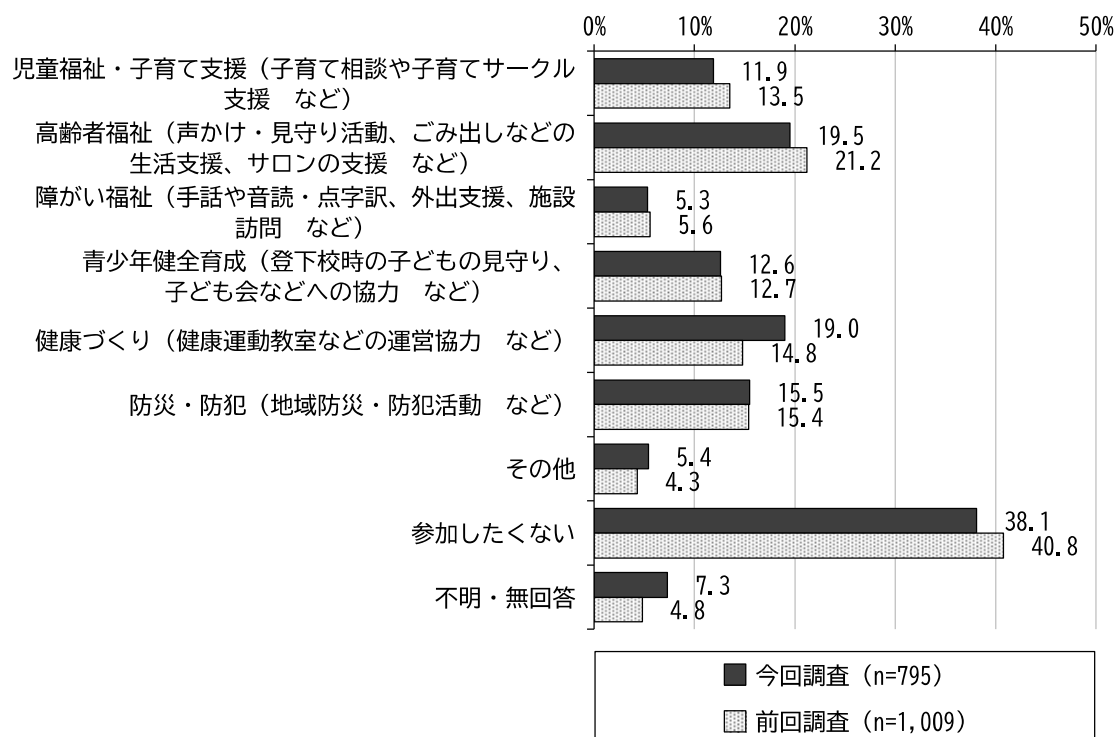
- ・年齢的に無理（できない）（2件）
- ・高齢で自分自身のことで精一杯
- ・体調がすぐれないため、参加できない
- ・高齢のため不可
- ・わからない
- ・病氣中
- ・歩くのに杖がないと歩くのが大変
- ・昔ライオンズクラブでは多少ある
- ・精神疾患があるため
- ・どんな内容かわからない
- ・意味不明で専門分野ではないと思う。
- ・仕事がハード。家のことはワンオペで時間的、体力的に無理。したくてもできなかった
- ・ボランティアに参加したとしても役に立てるとは思わない
- ・自宅近くの公園の植木を剪定してきれいに、ゴミを捨てられないようにしている
- ・時間があれば仕方ない気持ちで役員を引き受けと思う
- ・体調が悪いので参加しても役に立たないと思う
- ・高齢者にできる活動、できそうなことがわからない
- ・自分自身が健康に過ごすことに気が向いている。手一杯
- ・地域でボランティア活動等の積極的な目的意欲を促す機会がないので参加していない
- ・9060 問題
- ・足が悪く外出がひとりでは難しい
- ・市がほったらかしにしている空地の管理
- ・体調がついていけないため
- ・家族の世話で余裕がない
- ・機会があれば（年齢と相談）
- ・自分が高齢のためできないと思う
- ・個人的に深く頼られて複数人関わった
- ・仕事が忙しすぎて難しい
- ・地域の資源回収は参加している

- ・ドネーションは行っている（毎月ユニセフに）
- ・自治会を辞めたため、一切参加できないと説明があった
- ・参加したことはない。参加方法がわからない。参加してみたい気持ちもあるが、1度参加すると、勧誘されてその後も継続的に参加せざるを得なくなるのではと思うと躊躇する。

問 15 あなたは、今後、次のような福祉にかかわる地域活動やボランティア活動などに参加したいと思いますか。（複数回答）

今後、福祉にかかわる地域活動やボランティア活動などに参加したいかについてみると、「参加したくない」が 38.2%と最も高く、次いで「高齢者福祉（声かけ・見守り活動、ごみ出しなどの生活支援、サロンの支援 など）」が 19.5%、「健康づくり（健康運動教室などの運営協力 など）」が 19.0%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



【その他回答】

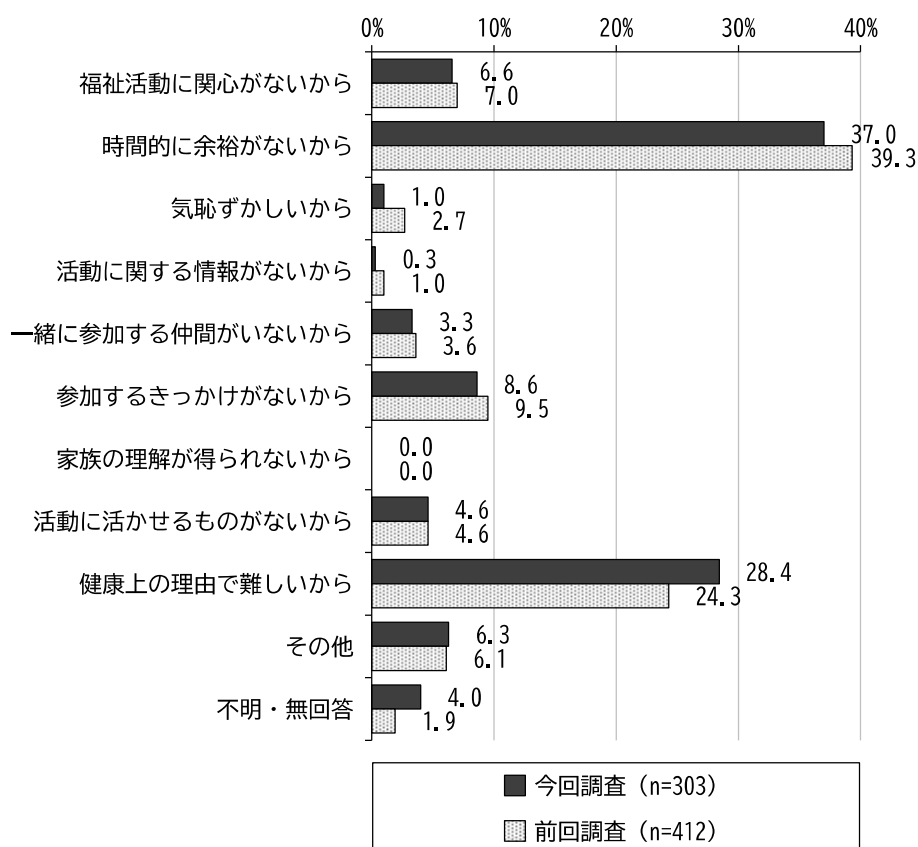
- ・わからない（2件）
- ・高齢で参加できない（2件）
- ・参加できない（2件）
- ・体力がないので何もできない
- ・自分だけの動きでいっぱい
- ・参加したくても高齢のため活動ができない
- ・高齢（85歳）につき活動不可
- ・身体障がい者のため参加できない
- ・就活支援
- ・参加したいと思っても体調がついていかない
- ・勤務上厳しい
- ・今のところ考えていない
- ・まだわからない
- ・できない
- ・現時点では不明
- ・仕事が忙しいのでなかなか参加できない
- ・多文化共生関連
- ・地域福祉に関するボランティアのお手伝い
- ・知識不足ですから説明して下さい。
- ・障害があり、できない
- ・必要があれば
- ・自分と要介護者の夫の生活維持で精一杯。時間の確保が困難。したくないのではなくできない
- ・なぜ必要なのかを具体的に説明される機会の提供があれば考える
- ・手帳は持っていませんが、私自身が左半身麻痺があるのでできません

問 15 で「参加したくない」を選択した方のみ

問 15-1 参加したくないのはなぜですか。（単数回答）

地域活動やボランティア活動などに参加したくない理由についてみると、「時間的に余裕がないから」が 37.0%と最も高く、次いで「健康上の理由で難しいから」が 28.4%、「参加するきっかけがないから」が 8.6%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



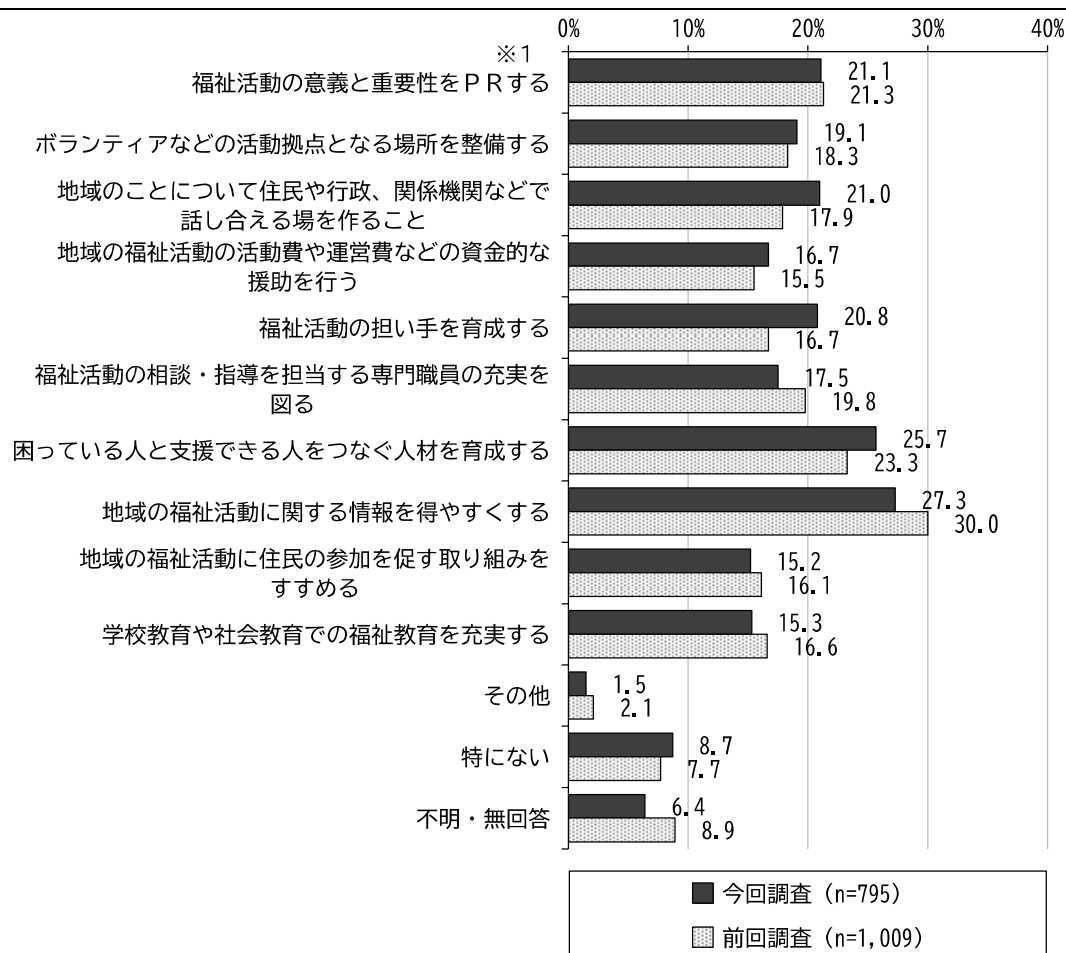
【その他回答】

- ・高齢（だから）（2件）
- ・今の活動が重要だから
- ・太宰府市だから
- ・煩わしい
- ・高齢者
- ・人とのかかわりが苦手だから
- ・役割与えられるも後継者なし
- ・フルタイムで働きたい
- ・気持ちに余裕がない
- ・行政が必要最小限すればよい
- ・年齢的にも無理かと
- ・介護のため
- ・人見知りだから
- ・家族が第一の生活、活動をしてしたい
- ・時間と心の余裕がないから

問 16 今後、地域における支え合いや助け合いの活動を活発にしていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。（3つまで複数回答）

今後、地域における支え合いや助け合いの活動を活発にしていくために重要なことについてみると、「地域の福祉活動に関する情報を得やすくする」が27.3%と最も高く、次いで「困っている人と支援できる人をつなぐ人材を育成する」が25.7%、「福祉活動の意義と重要性をPRする」が21.1%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



※1 前回調査では「福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」。

【その他回答】

- ・楽しく意義ある場所を
- ・担い手の継承が難しい
- ・わからない
- ・行政の仕事
- ・当事者じゃないので何も言えない
- ・そもそも、福祉助け合い活動を住民で担うのはまちがっている。行政が支援すべき。市税を払っている意味がない
- ・ボランティアに参加できるアプリなどを活用して活動をしていく
- ・人と人、人と情報、人と福祉のマッチングにIoTを利用する。独自で開発するのはコストがかかるので、国が主体となって一本化したシステムを作り、各地域が運用する形で…
- ・福祉活動の意義を深掘りするイベントを開催する為、活動資金源を確保して行く国作りが必要。
- ・ボランティアの方に交通費や弁当や、飲食していただく場を提供する。する方も楽しい気持ちになる方が継続すると思います

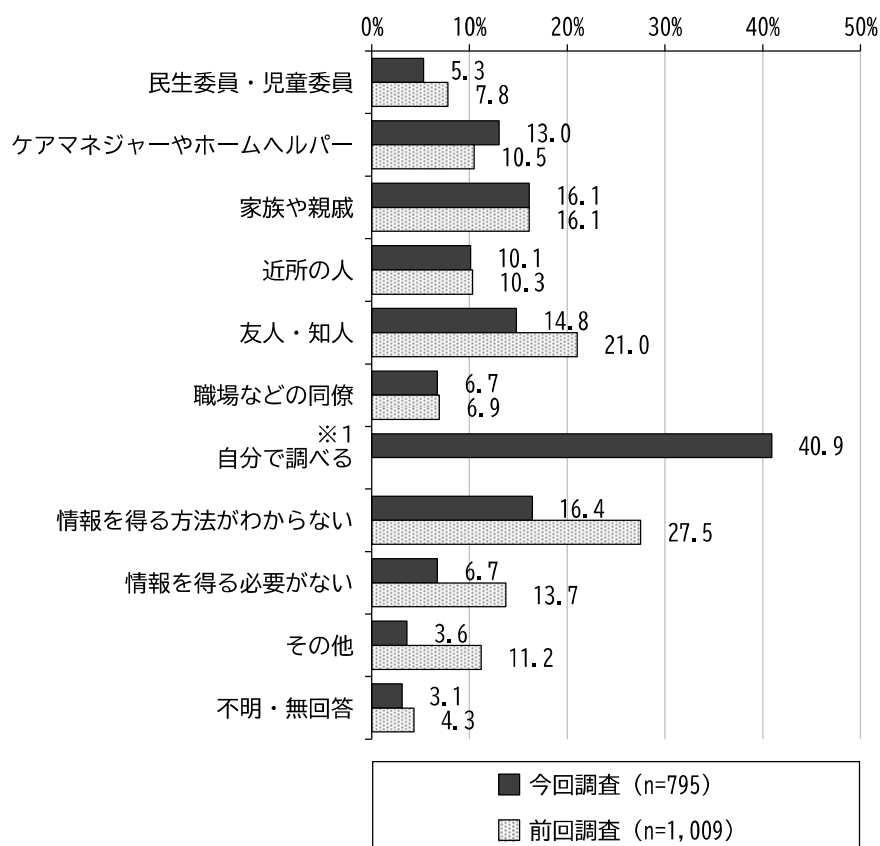
5 福祉サービスについて

問 17 あなたは、「福祉サービス」に関する情報について、どのように得ていますか。

① 誰から得ていますか。（2つまで複数回答）

「福祉サービス」に関する情報を入手している相手についてみると、「自分で調べる」が 40.9%と最も高く、次いで「情報を得る方法がわからない」が 16.4%、「家族や親戚」が 16.1%となっています。

前回調査と比較すると、「友人・知人」が 6.2 ポイント、「情報を得る方法がわからない」が 11.1 ポイント、「情報を得る必要がない」が 7.0 ポイント減少しています。



※1 今回調査のみの選択肢。

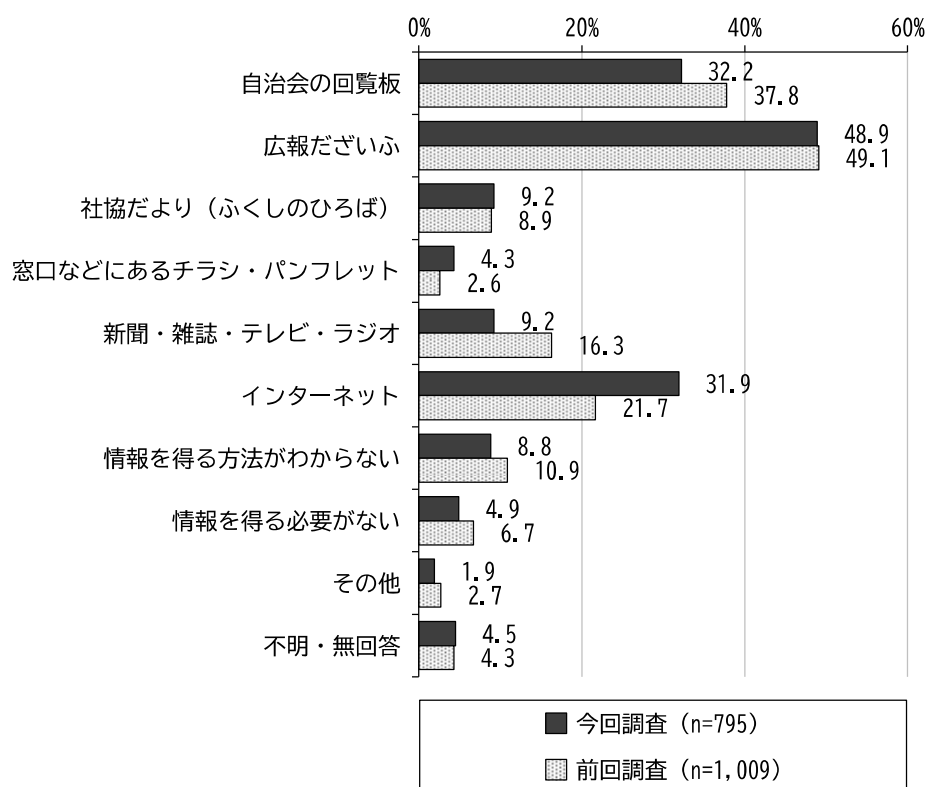
【その他回答】

- ・ 仕事
- ・ 通院している病院の医師
- ・ 相談員
- ・ 太宰府市広報
- ・ 病院（ケースワーカーなど）
- ・ 娘が就労継続支援 B 型で、福祉施設に通所しているので、職員さんからお話を聞いたりします。
- ・ 相談員、医師、放課後デイの職員
- ・ 自治会
- ・ 福祉サービスとは？
- ・ 広報など。
- ・ 何が福祉サービスなのかわからない
- ・ 現役時代福岡市の介護保険による住宅改造の経験 13 年
- ・ 今のところ必要がないため
- ・ 人に接しないのでわからない
- ・ 市報

② どんな媒体から得ていますか。（2つまで複数回答）

「福祉サービス」に関する情報を入手している媒体についてみると、「広報だざいふ」が 48.9%と最も高く、次いで「自治会の回覧板」が 32.2%、「インターネット」が 31.9%となっています。

前回調査と比較すると、「インターネット」が 10.2 ポイント増加、「自治会の回覧板」が 5.6 ポイント、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が 7.1 ポイント減少しています。



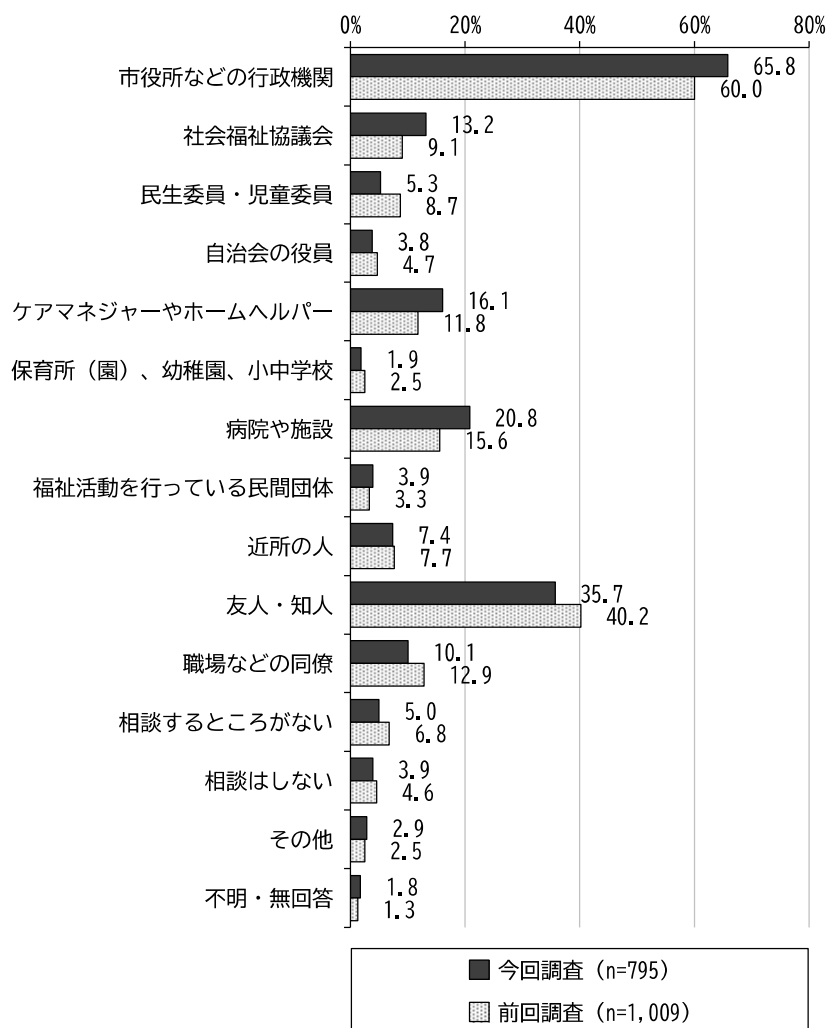
【その他回答】

- ・介護の仕事をしているから
- ・体験談
- ・福祉の仕事をしている家族がいる
- ・広報誌が未足らないため、確認内容が届いてない
- ・高齢だが何でも自分でできている
- ・市の LINE
- ・相談員、医師、放課後デイの職員
- ・現役時代福岡市の介護保険による住宅改造の経験 13 年
- ・通院している病院
- ・知り合い
- ・親が介護が必要だったから

問 18 あなた自身やご家族が、生活上の困りごとを抱えた時、家族以外で、どこ（誰）に相談しますか。（3つまで複数回答）

あなた自身や家族が、生活上の困りごとを抱えた時、家族以外で相談する相手についてみると、「市役所などの行政機関」が65.8%と最も高く、次いで「友人・知人」が35.7%、「病院や施設」が20.8%となっています。

前回調査と比較すると、「市役所などの行政機関」が5.8ポイント、「病院や施設」が5.2ポイント増加しています。



【その他回答】

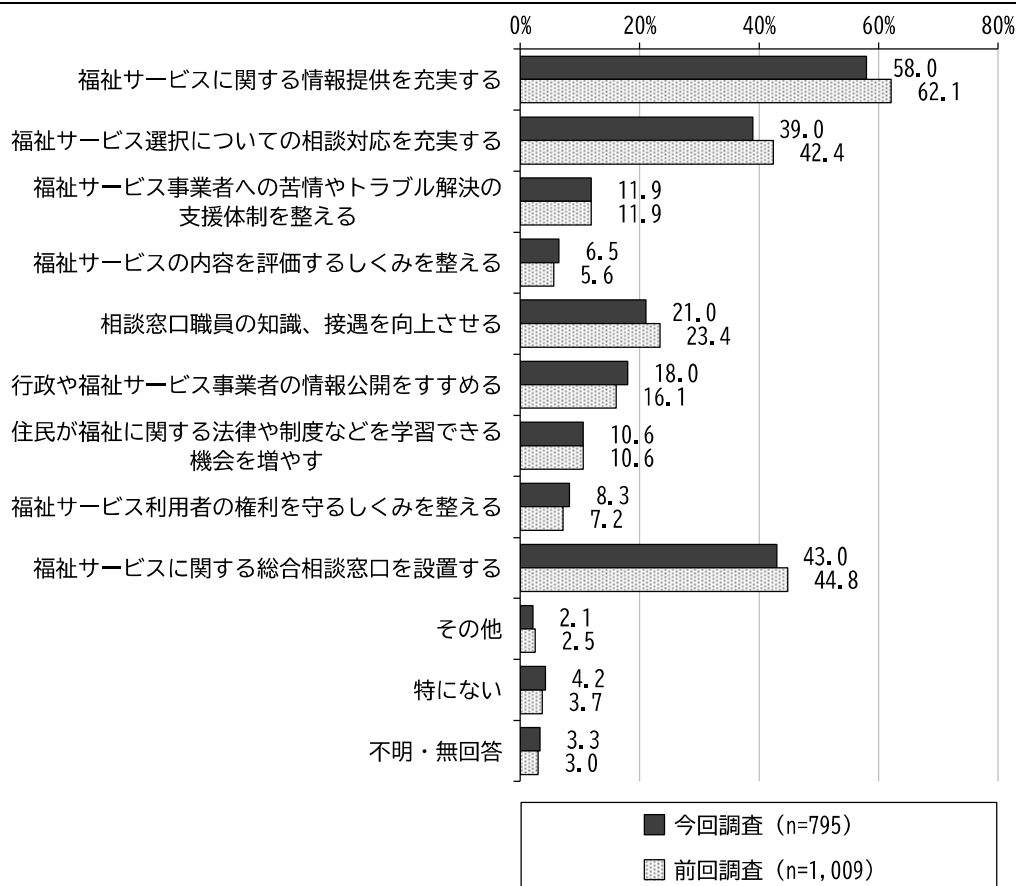
- ・インターネットで調べ、各機関（関連施設等）へ相談（2件）
- ・どのように相談すればよいかわからない
- ・食口
- ・家族が仕事先で
- ・自分
- ・相談員、医師、放課後デイの職員
- ・以前社会福祉協議会でお世話になったことがあったが職員の方の対応がひどかった。
- ・政府機関(法テラスなどの警察機関)や法律事務所の弁護士会の団体。
- ・その時にならないと何が必要なのか何処に相談するのか分からないので今は何も考えてない
- ・社協にしたいが足が向かない
- ・Web、AI など
- ・内容による
- ・インターネット（AI）
- ・ネット
- ・施設のスタッフ
- ・ネット検索

問19 福祉サービス利用者が、自分に最適な福祉サービスを選び、安心して利用するため、市役所ではどのようなことに取り組む必要があると思いますか。

(3つまで複数回答)

自分に最適な福祉サービスを選び、安心して利用するため、市役所が対応する必要がある取り組みについてみると、「福祉サービスに関する情報提供を充実する」が58.0%と最も高く、次いで「福祉サービスに関する総合相談窓口を設置する」が43.0%、「福祉サービス選択についての相談対応を充実する」が39.0%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



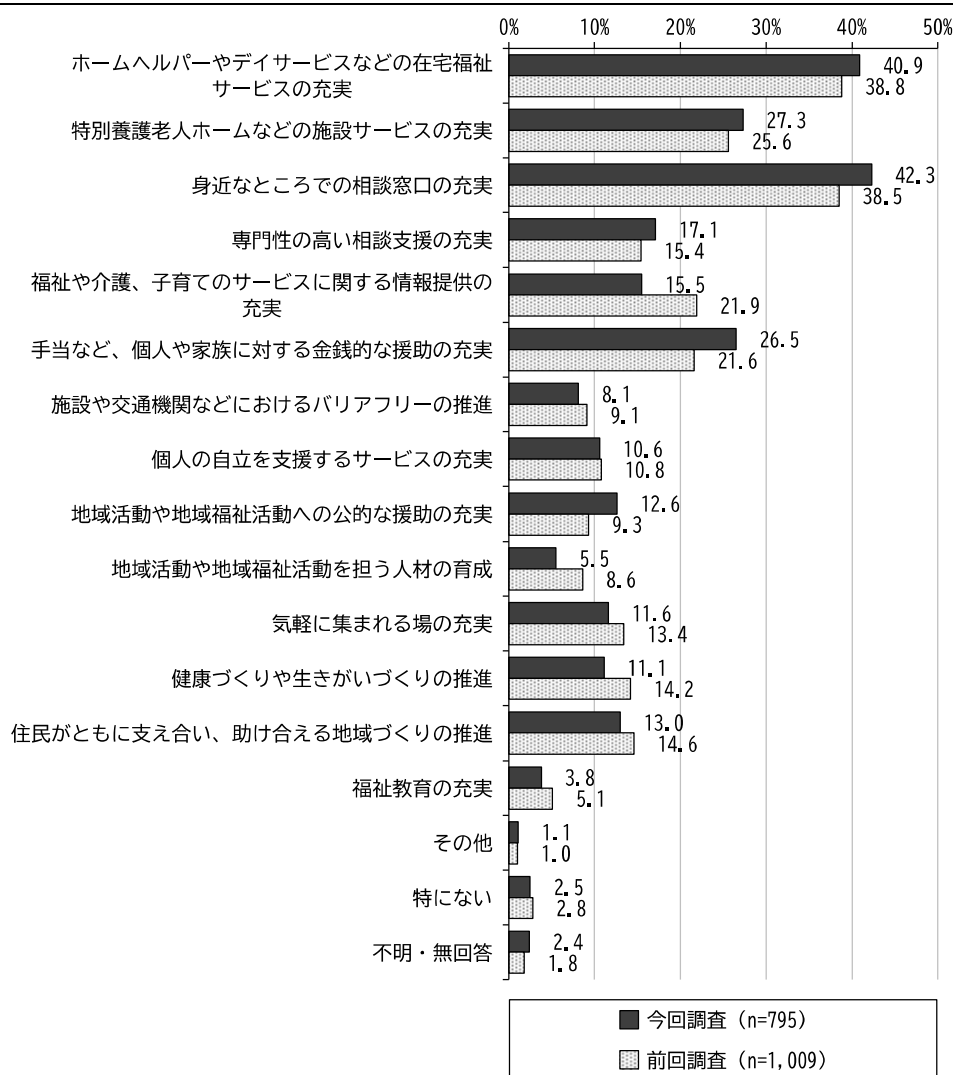
【その他回答】

- ・相談に行ったが、相手が次々に変わって相談にならなかった
- ・行政は専門的な振り分けをするべき
- ・拾い上がった声に対して適切な対応の明確な流れ
- ・まだ利用することがないのでよくわからない
- ・わからない
- ・予算を増加し、有効かつ適正にその予算を使う
- ・職員の理解力
- ・当事者じゃないのでなにも分からない
- ・青葉台（西小校区は市役所が遠くてなかなか相談窓口が遠く、とても不便で）
- ・相談者と相談事に最適な選択肢を提示出来る窓口、人を育てる
- ・高齢者になり、困り事が増えた段階でしか行政を頼らない傾向があると予測しています。そのため、子育て世代含む若い世代から利用する福祉サービスを充実させて歳を重ねるごとに受けるサービスが変化していくような一貫した事業としてあると生活の中に福祉が入り、住民参加型の福祉が出来上がると思う。

問 20 住民が住み慣れた地域で、安心して暮らしていくためには、どのような福祉のあり方が大切だと思いますか。（3つまで複数回答）

住民が住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために大切な福祉のあり方についてみると、「身近なところでの相談窓口の充実」が42.3%と最も高く、次いで「ホームヘルパーやデイサービスなどの在宅福祉サービスの充実」が40.9%、「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が27.3%となっています。

前回調査と比較すると、「福祉や介護、子育てのサービスに関する情報提供の充実」が6.4ポイント減少しています。

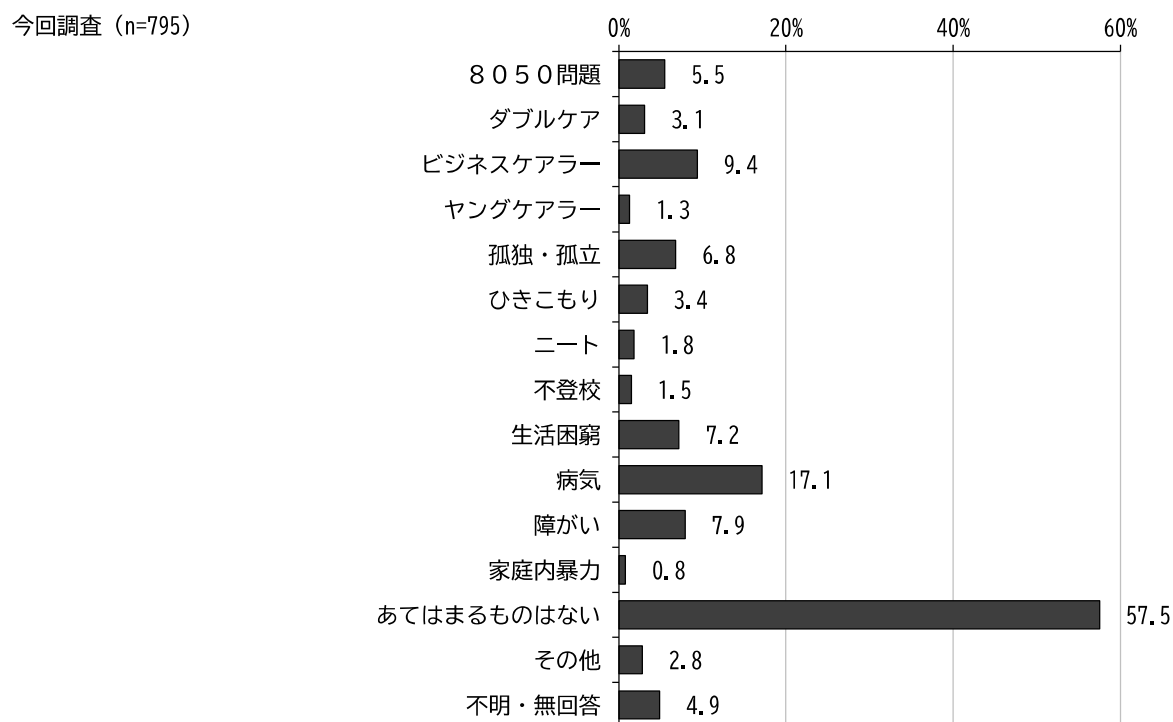


【その他回答】

- ・移動手段
- ・わからない
- ・通院などの移動支援の充実
- ・天満宮近辺の交通路を速度制限してほしい
- ・そもそも力を入れるべきは福祉では無い。
- ・まだ福祉に対する経験がないので大切なことがわかりかねる

問 21 あなたが、自分自身のことや家族のことで困っていることをお選びください。
(複数回答)

自分自身のことや家族のことで困っていることについてみると、「あてはまるものはない」が 57.5%と最も高く、次いで「病気」が 17.1%、「ビジネスケアラー」が 9.4%となっています。



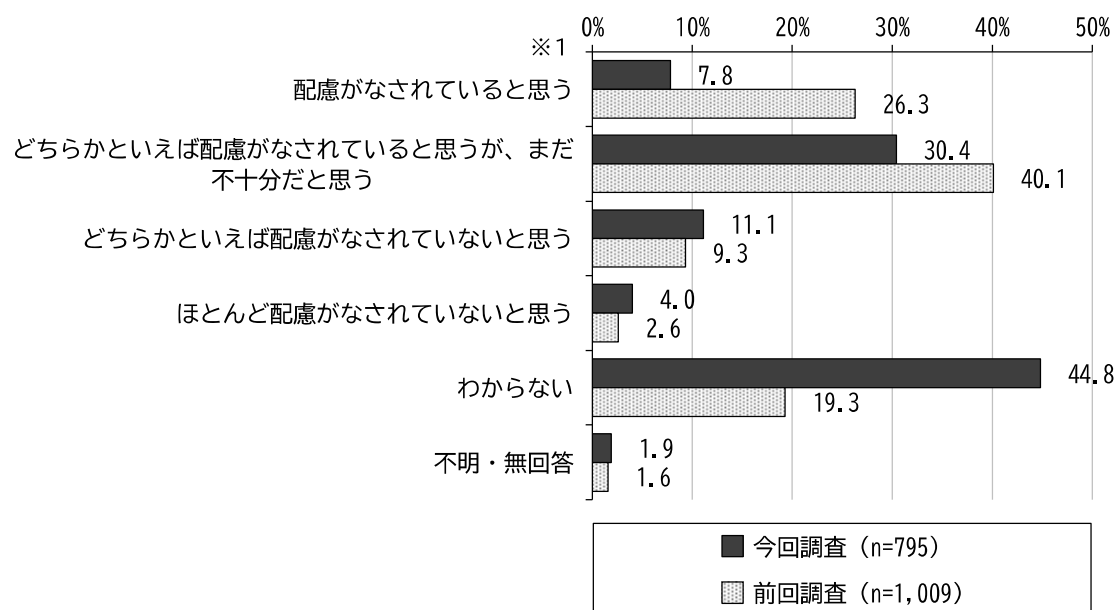
【その他回答】

- ・ 老々介護で体が意思通りに動けない
- ・ 動作が遅くなった
- ・ 高齢者と障がいをもった家族
- ・ 困るほどではない
- ・ 一時的な腰痛、ぎっくり腰など
- ・ 老後
- ・ 親（95歳）より自分（69歳）の健康が心配。圧迫骨折、膝痛。親は元気でわがまま
- ・ 親が遠方にいて不安（東京）娘が自立をしてくれない
- ・ 市内、県内の乱暴な車の運転、ルール無視な自転車の運転
- ・ 社会福祉法人の仕事に対する自由介護法律の考えと会合の仕事での利益供与。
- ・ 離れて暮らす両親が高齢になり、有事の際に対応できないこと
- ・ 老親が遠方に住んでいることで介護問題が起きた時に、仕事を続けていけるか、親の近くに転居する必要があるのかなどの不安
- ・ 伯母の介護
- ・ 認知症 高齢に伴い要介助状態になること
- ・ 交通手段
- ・ 高齢化、年をとって体が動かない
- ・ 別にない
- ・ 特にない

問 22 あなたは太宰府市のまちづくりは、障がいのある人への配慮がなされていると思いますか。（単数回答）

大宰府市のまちづくりは障がいのある人への配慮がなされているかについてみると、「わからない」が 44.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば配慮がなされていると思うが、まだ不十分だと思う」が 30.4%、「どちらかといえば配慮がなされていないと思う」が 11.1%となっています。

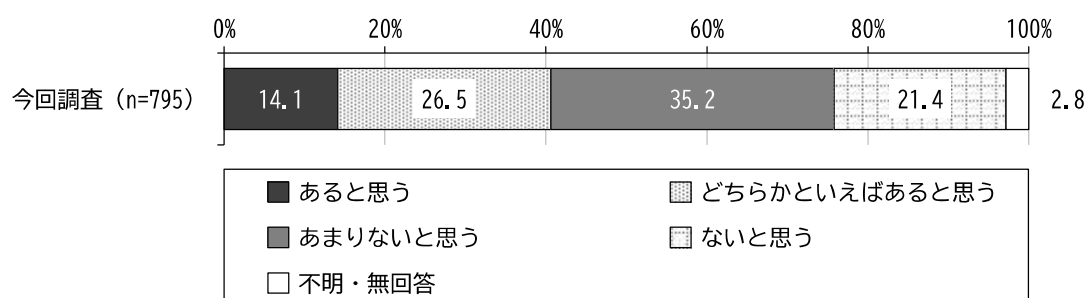
前回調査と比較すると、「わからない」が 25.5 ポイント増加、「配慮がなされていると思う」が 18.5 ポイント減少しています。



※1 前回調査では「一定の配慮はなされていると思う」。

問 23 あなたは、障がいのある人に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。（単数回答）

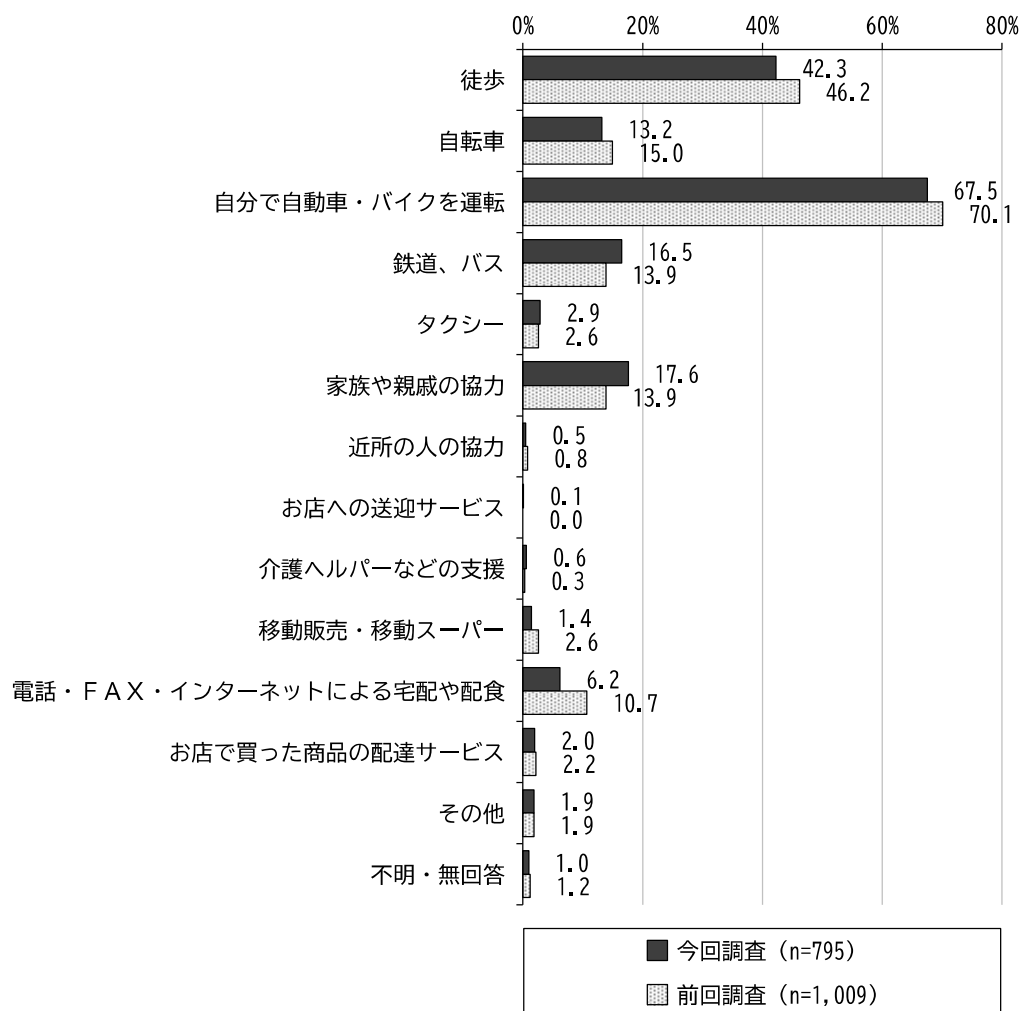
障がいのある人に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うかについてみると、「あまりないと思う」が 35.2%と最も高く、次いで「どちらかといえばあると思う」が 26.5%、「ないと思う」が 21.4%となっています。



問 24 あなたはどのような方法で買い物をしていますか。（3つまで複数回答）

買い物をしている方法についてみると、「自分で自動車・バイクを運転」が 67.5%と最も高く、次いで「徒歩」が 42.3%、「家族や親戚の協力」が 17.6%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



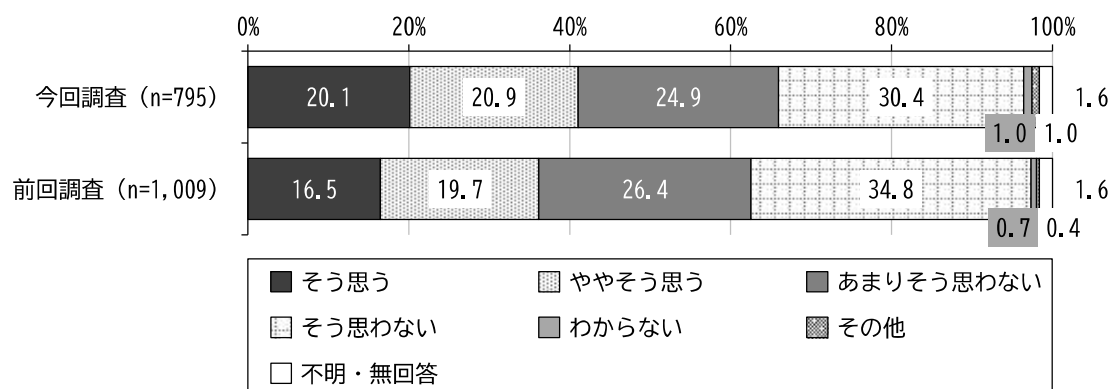
【その他回答】

- ・歩いていけるとところに店はない
- ・身体不自由なため、買い物は行けない
- ・買い物に行かない
- ・行けない
- ・生協の配達
- ・いかない
- ・自家用車

問 25 あなたは問 24 で○をつけた方法で買い物を行ったうえで、住んでいる場所が買い物に不便だと思いますか。（単数回答）

問 24 で回答した方法で買い物を行ったうえで、住んでいる場所が買い物に不便だと思うかについてみると、「そう思わない」が 30.4%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」が 24.9%、「ややそう思う」が 20.9%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



【その他回答】

- ・今はよいが運転できなくなったときが不安
- ・自分では行けない
- ・バスも減るし弱者への

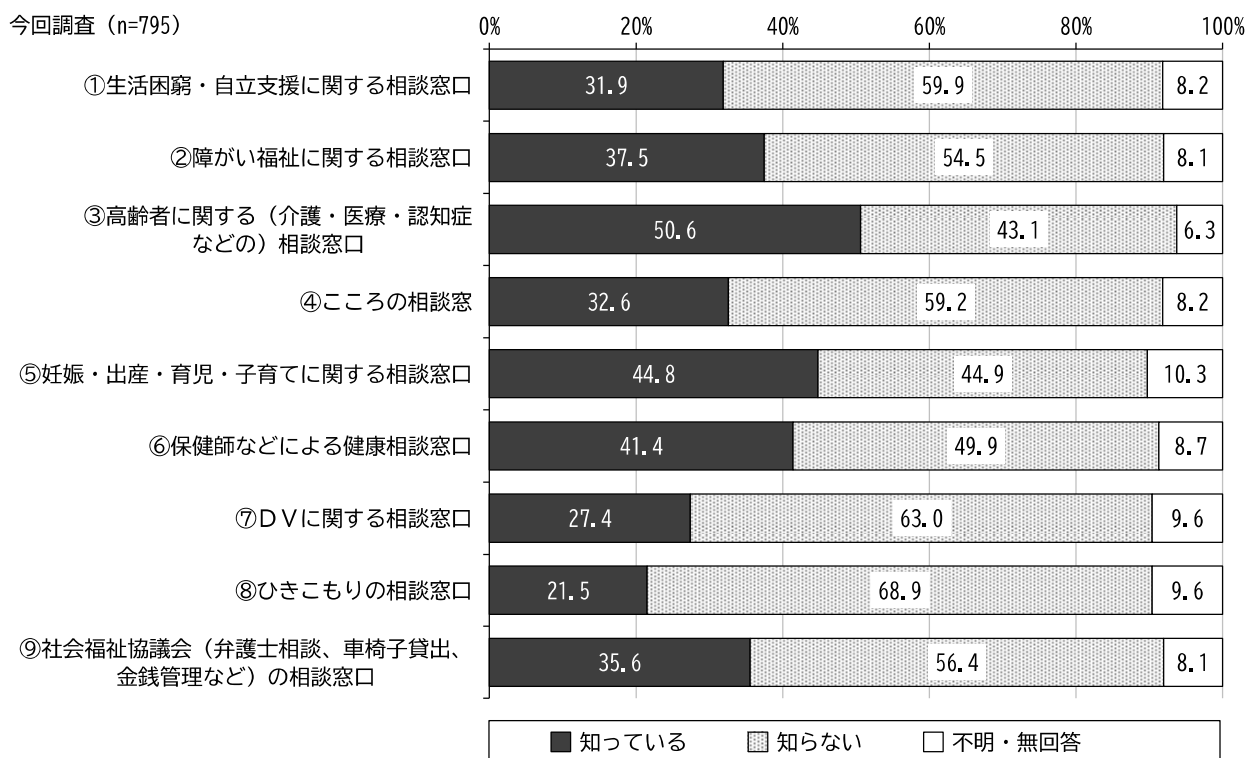
6 相談について

問 26 以下の相談窓口を知っていますか。また、困りごとについて相談をしたり、困りごとのある方に窓口を紹介したりするなど、活用をしたことがありますか。

(それぞれ単数回答)

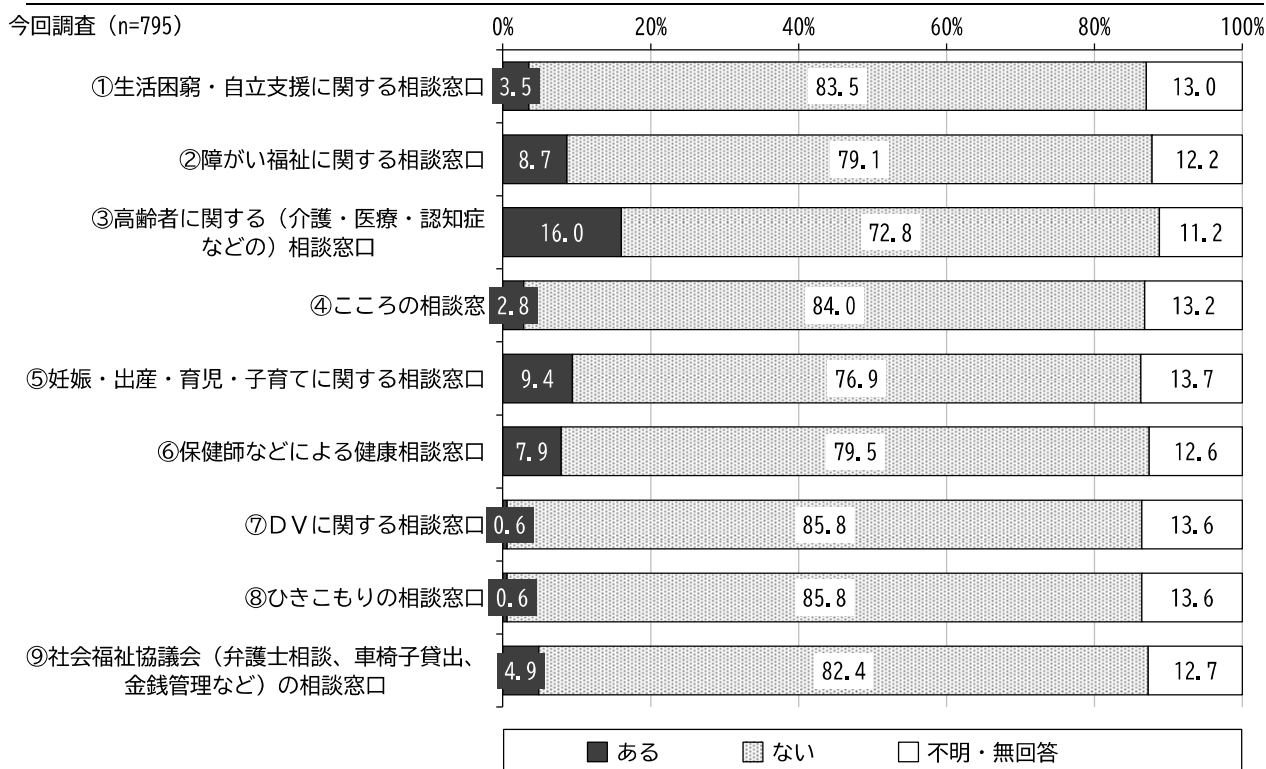
■ 窓口を知っているか

窓口を知っているかについてみると、〔③高齢者に関する（介護・医療・認知症などの）相談窓口〕では「知っている」、その他の項目では「知らない」が高くなっています。また、〔⑦DVに関する相談窓口〕〔⑧ひきこもりの相談窓口〕では「知らない」が6割台と他の項目と比べて高くなっています。



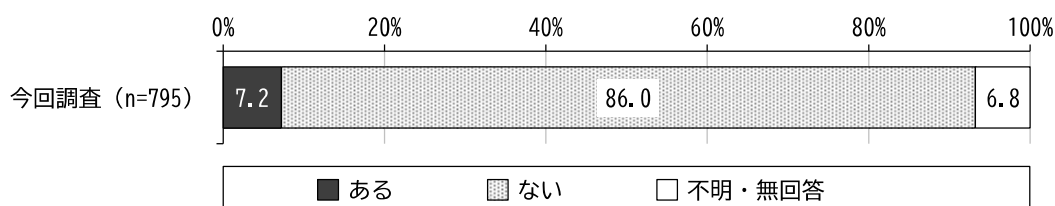
■ 活用したことがあるか

活用したことがあるかについてみると、すべての項目で「ない」が高くなっています。また、〔③高齢者に関する（介護・医療・認知症などの）相談窓口〕では「ある」が1割台と他の項目と比べて高くなっています。



問 27 これまで、行政の相談窓口や周囲など、どこに相談してよいかわからず、困った経験はありますか。（単数回答）

行政の相談窓口や周囲など、どこに相談してよいかわからず、困った経験があるかについてみると、「ある」が7.2%、「ない」が86.0%となっています。



問 27 で「ある」を選択した方

【具体的な内容】

- ・ 8050 問題（現在）←生活支援課？
- ・ 障がい福祉サービス、介護医療
- ・ 家族の病気
- ・ 社会福祉協議会で弁護士相談を受けた。
- ・ ひきこもり。自立支援。
- ・ 弁護士相談
- ・ 家族が介護施設に預けたときの施設の対応が悪く、そのことで相談したことがある。
- ・ 包括支援センター利用の初期、手順がわからず困った。かかりつけの医師、市役所に相談してその後スムーズに進めることができた。
- ・ 生活費が足りなくて、ちゃんと働いているのに保険料や税金が払えなくて、市役所に行っても私が悪い人的な扱いをうけた。
- ・ 私が生きることが辛くなる体験があり、そこで出会った「ミロテクノロジー（米国と中国で特許取得）」で人生観が大きく変わり、変容したことがありました。人権問題にも有効で、文科省の出前授業で「いじめが消える方程式」のテーマで講演会等を行っています。そのことをお伝えしたいのにできずにいることです。
- ・ 母親の認知症（軽度）について困っていた際、友人にケアマネジャーがいたため地域包括支援センターを教えてもらった。友人がいなければどこに相談してよいかわからなかった。
- ・ 介護保険課か後期高齢者医療保険（国保年金課）か窓口がわからないことがあった。
- ・ 過去にリウマチのため入院加療しました。その際に自動的に病院側から行政への連絡がうまくできてとても助かりました。風呂場、玄関に手すりをつけていただき今はとても助かっております。
- ・ 夫が介護が必要となり、どこに何を聞けばいいのか誰も教えてくれなかった。
- ・ 適当なサービス窓口がわからず、市議の方に紹介してもらいました。
- ・ お隣の日常的なたき火に悩まされていた。風向き、こちらの庭の物干しなどお構いなし。結果小火騒ぎとなった。消防署では丁寧に専門的に行動され上手に解決された。市役所では案内された窓口ではまるで変な人、クレーマー扱いだった。
- ・ 市内五条にあった小売スーパー倒産のため？二日市まで買いに行かねばならぬので大変困る。
- ・ 夫が入院中、買い物、犬の散歩の支援がなく、障がい者の私にとってとても困りました。包括支援センターに相談しても何にも支援してもらえず、後になってこういう支援ができますとが言い出して、ただ事務的で電話口だけで夫の入院先の福祉課の方もいい加減であきれていました。
- ・ 行政に行ってもわからないときは1階の総合カウンターで聞いている。
- ・ 具体的に思い出せないですが、よくあります（まちの景観、自転車のルール無視した運転等）。
- ・ 当市ではないが、親の介護についてまずどこのセンターに相談したらいいのかわからず、とりあえず近そうなところに電話して教えてもらった。
- ・ うつ病になり仕事ができなくなり、無収入で生活が厳しくなった。補助金の受け取りまでには期間が長くかかり、暮らしが困難になっていた。
- ・ 広報誌の相談窓口一覧をみても、相談内容が当てはまるかわからず、たらい回しにされかとも思い相談出来なかったし、相談内容だけで代表番号にかけるとたらい回しにされた事もありました

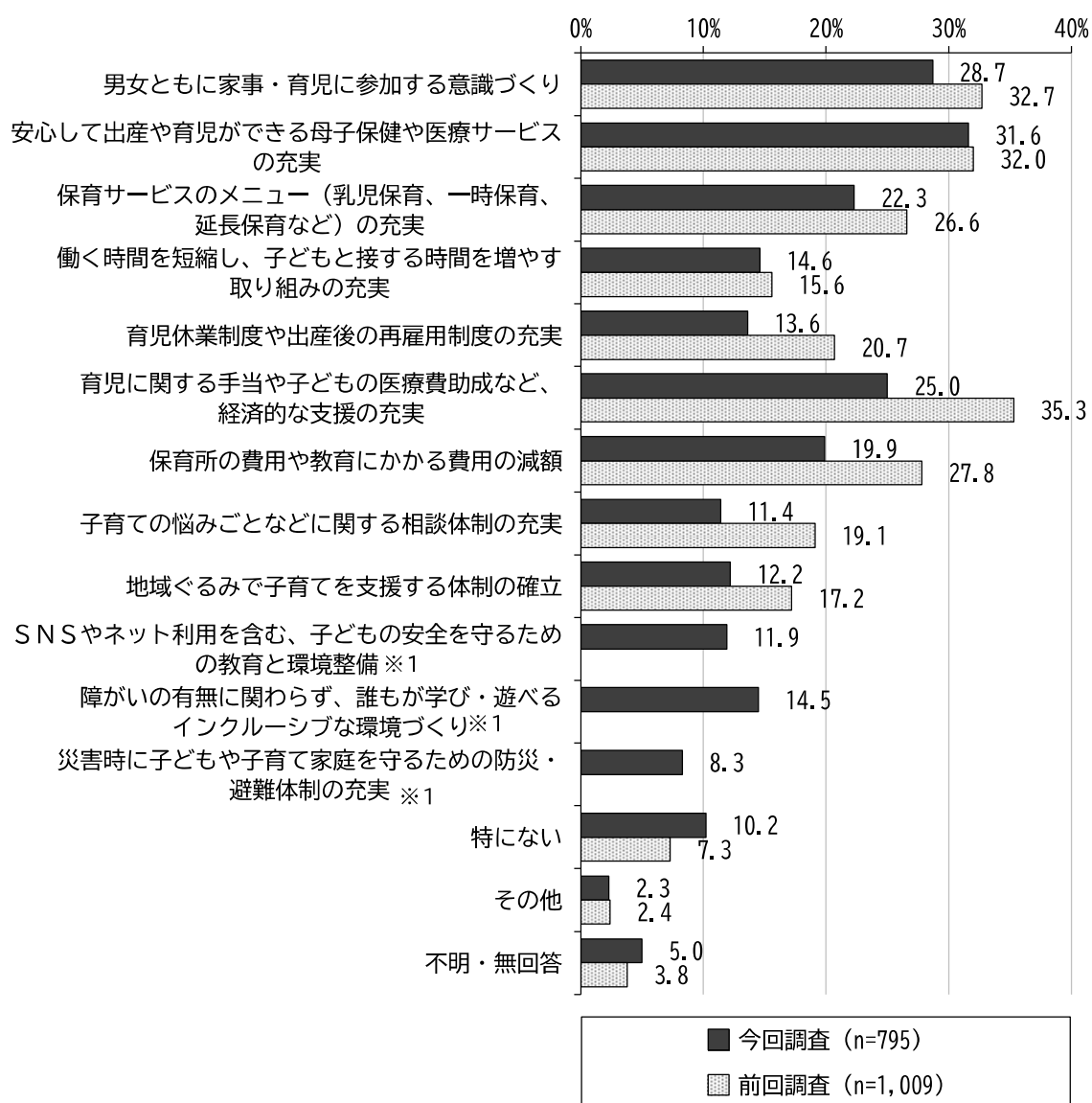
- ・特殊な仕事での利益報酬を受け取れるかを法律事務所で予約時点で断られたこと。それと、特殊法人の身分証明を受け取る場所が分からなかった。
- ・精神疾患になった際に公的にどこにどう頼ればいいのか分からず、何度か調べてみたものの脳も働かないので分からないまま結局相談などにも行かなかった
- ・学校教育について、不登校の保護者にもっと早い段階で、学校とは別の相談窓口を提示してもらいたい。
- ・子供の発達相談。保育園から小学校にかけて管轄が変わり情報収集が非常に煩雑だった。資料もわかりにくかった。
- ・子供が学童登校を職員から拒否された時相談する場所がわからず、結果学童を抜けることになった。小学校も学童は何も情報提供してくれなかった。

7 これからの福祉のあり方について

問 28 子どもたちやその家族が住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。（3つまで複数回答）

子どもたちやその家族が住みよいまちをつくるために重要なことについてみると、「安心して出産や育児ができる母子保健や医療サービスの充実」が31.6%と最も高く、次いで「男女ともに家事・育児に参加する意識づくり」が28.7%、「育児に関する手当や子どもの医療費助成など、経済的な支援の充実」が25.0%となっています。

前回調査と比較すると、「育児休業制度や出産後の再雇用制度の充実」が7.1ポイント、「育児に関する手当や子どもの医療費助成など、経済的な支援の充実」が10.3ポイント、「保育所の費用や教育にかかる費用の減額」が7.9ポイント、「子育ての悩みごとなどに関する相談体制の充実」が7.7ポイント、「地域ぐるみで子育てを支援する体制の確立」が5.0ポイント減少しています。



※1 今回調査のみの選択肢。

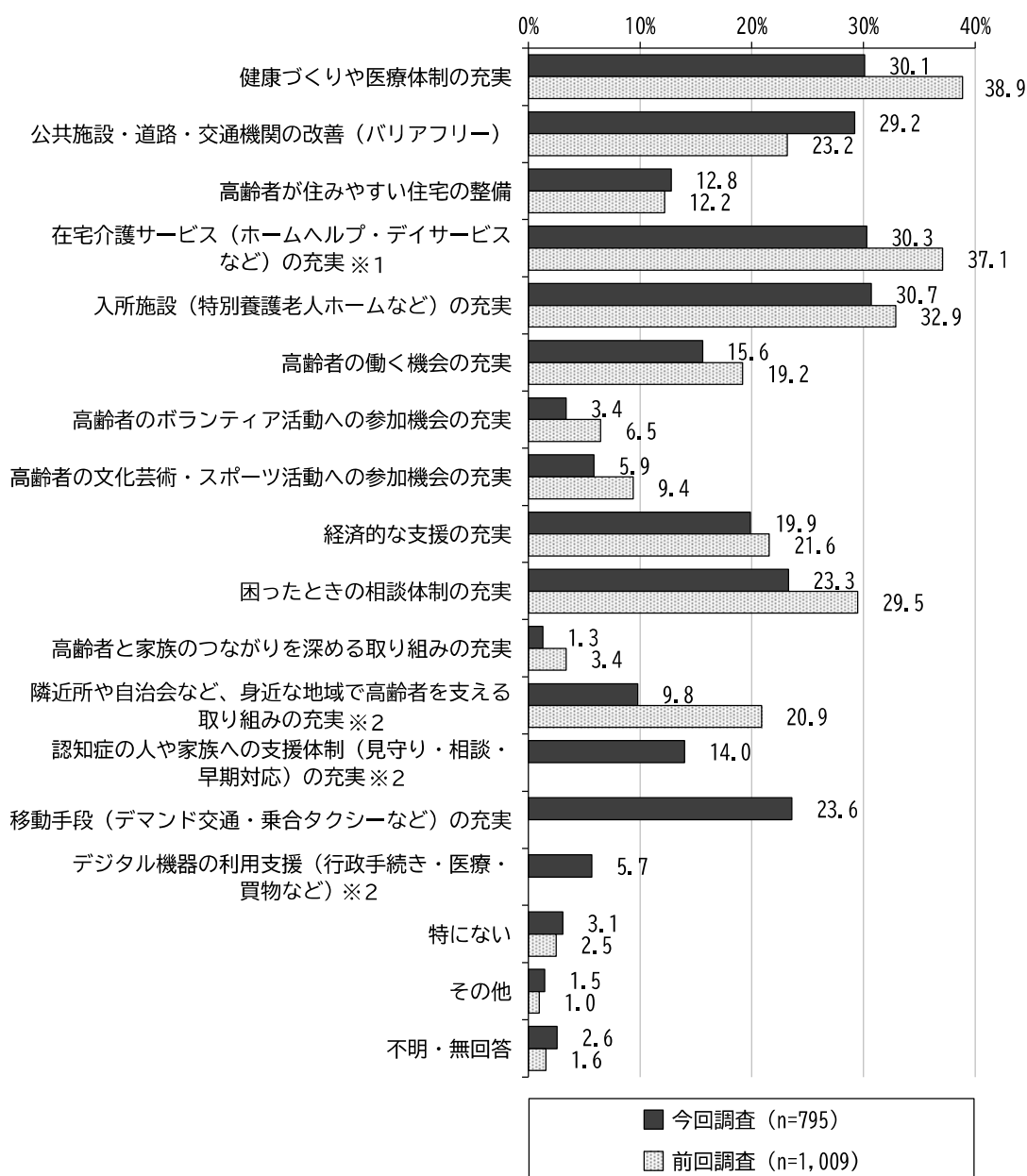
【その他回答】

- ・（よく）わからない（2件）
- ・ほとんどの社会構造をよくしないといけない
- ・年齢的に選ぶのが困難
- ・高齢のため深く考えることが困難
- ・インクルーシブ？わかりやすい表現にすべきでは？
- ・小学校低学年を公共で預かるようなサービス
- ・子育てにかかる費用の負担が大きく出産したくてもできない。国として経済的支援を
- ・子どもたちが自由に快適に遊べる公園の整備。公園で遊ぶと近所の人クレームをつけたり、通報するような環境は改善すべき
- ・行政サイドでもっと外へ出て、どこでどんな問題、課題があるか認識してほしい。土日祝日にもいろいろなこと、市民の抱えている問題、課題を相談できる窓口を設けてほしい。このようなアンケートも匿名ではまったく意味がないと思う。もっと多くの人（できればすべての人）に冊子を届け、回答はその人の自由意思に任せ協力してもらえた市民に内容に沿った具体的な情報提供することが「安心して暮らすことができるまちづくり」につながると思います。一度よく考えてください。
- ・そもそも福祉に力を入れすぎている。土砂関連の防災、観光だよりの経済、外国人頼りの雇用、劣化した道路、手を入れるべきは他にあるのに、何故それらのアンケートを取らないのか。
- ・保育所の増設、施設の拡充
- ・歩道等インフラの整備※段差凸凹が多い
- ・小さい子供がいないのでわからない
- ・すべての世代に道徳指導の充実

問 29 高齢者が住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。（3つまで複数回答）

高齢者が住みよいまちをつくるために重要なことについてみると、「入所施設（特別養護老人ホームなど）の充実」が 30.7%と最も高く、次いで「在宅介護サービス（ホームヘルプ・デイサービスなど）の充実」が 30.3%、「健康づくりや医療体制の充実」が 30.1%となっています。

前回調査と比較すると、「公共施設・道路・交通機関の改善（バリアフリー）」が 6.0 ポイント増加、「健康づくりや医療体制の充実」が 8.8 ポイント、「在宅介護サービス（ホームヘルプ・デイサービスなど）の充実」が 6.8 ポイント、「困ったときの相談体制の充実」が 6.2 ポイント、「隣近所や自治会など、身近な地域で高齢者を支える取り組みの充実」が 11.1 ポイント減少しています。



※1 前回調査では「在宅福祉サービス（ホームヘルプ・デイサービスなど）の充実」。

※2 今回調査のみの選択肢。

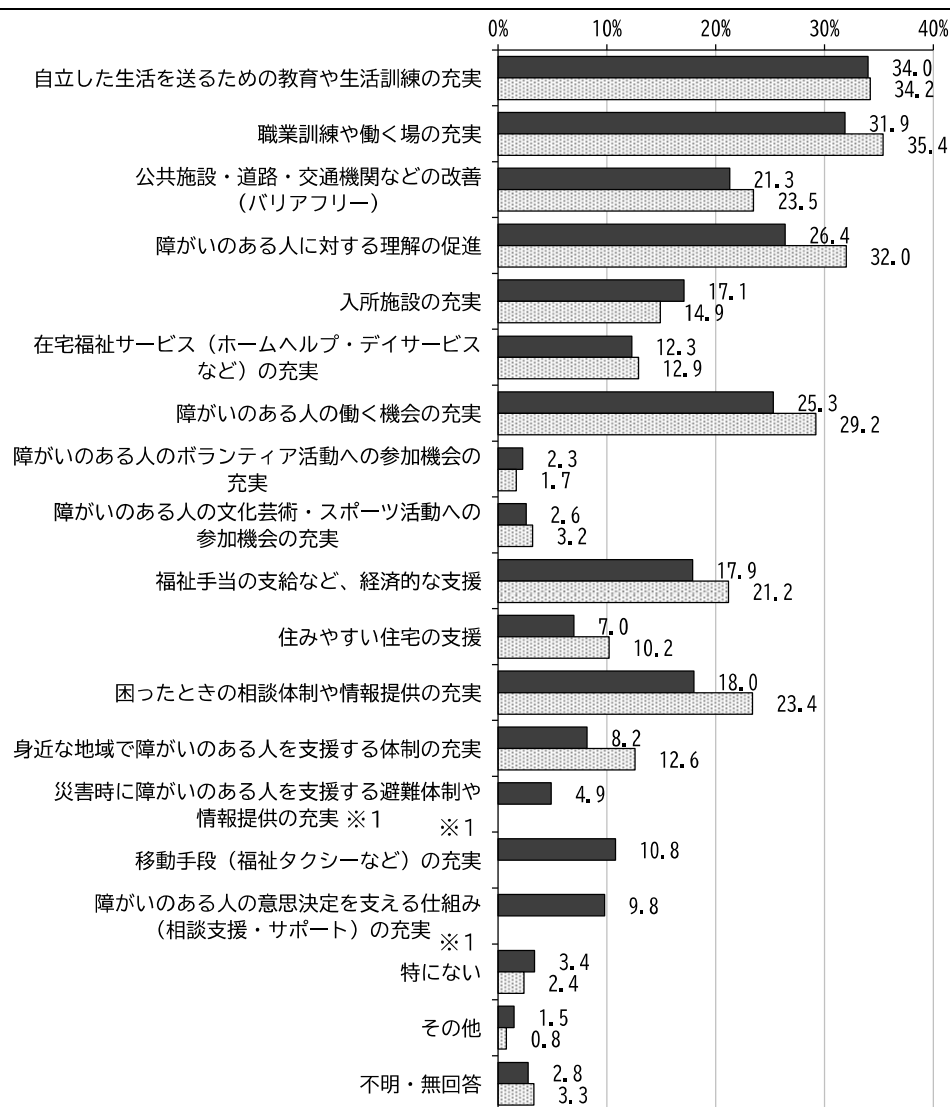
【その他回答】

- ・ わからない（２件）
- ・ 当事者になってみないとよくわからない
- ・ 防犯カメラ、街灯
- ・ 連歌屋地区近辺に食品スーパーがなく、小売店もなし
- ・ 今現在は外出できないが、６～７年前の外出時、買い物難民であると感じていた。コミュニティバスなどの公共の交通機関の充実が必要…かつて本人が子に話した内容
- ・ その時にならないと分からないのでお答え出来ません
- ・ 身近に高齢者がいないのでわからない
- ・ 買い物の不便さの解消。国分区は不便
- ・ 買い物出来る場所の充実

問 30 障がいのある人たちが住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。（3つまで複数回答）

障がいのある人たちが住みよいまちをつくるために重要なことについてみると、「自立した生活を送るための教育や生活訓練の充実」が34.0%と最も高く、次いで「職業訓練や働く場の充実」が31.9%、「障がいのある人に対する理解の促進」が26.4%となっています。

前回調査と比較すると、「障がいのある人に対する理解の促進」が5.6ポイント、「困ったときの相談体制や情報提供の充実」が5.4ポイント減少しています。



※1 今回調査のみの選択肢。

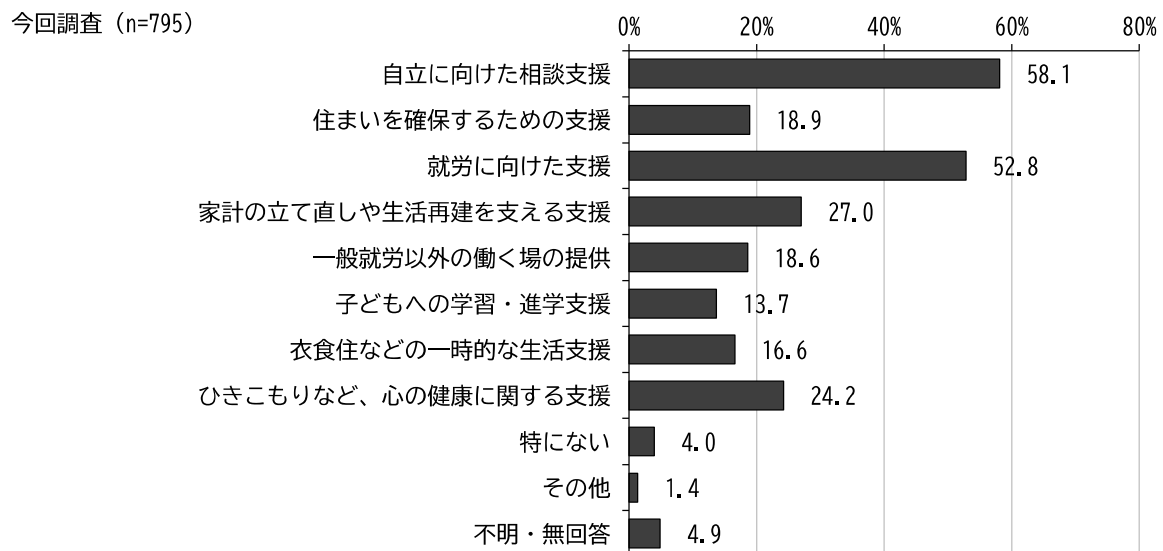
【その他回答】

- ・病院、専門施設と連携するのが大事
- ・直面したことがないのでわからない
- ・不動産の処分方法の相談
- ・障がい者について何もわからないので考えることができない
- ・わからない
- ・高齢のため、たくさんの項目についての理解が困難
- ・特技を活かした支援給与制度。
- ・金銭の提供
- ・自立支援も大事だが、ケースによっては自立ではなく支援機関に頼らせてよいと思う。できること、できないことはしっかり区別し、効率出来な関わりを模索するべき

8 生活困窮者支援・ひきこもりについて

問 31 生活困窮者が安心して暮らせるようにするため、どのような支援が重要だと思いますか。（3つまで複数回答）

生活困窮者のために重要だと思う支援についてみると、「自立に向けた相談支援」が 58.1%と最も高く、次いで「就労に向けた支援」が 52.8%、「家計の立て直しや生活再建を支える支援」が 27.0%となっています。

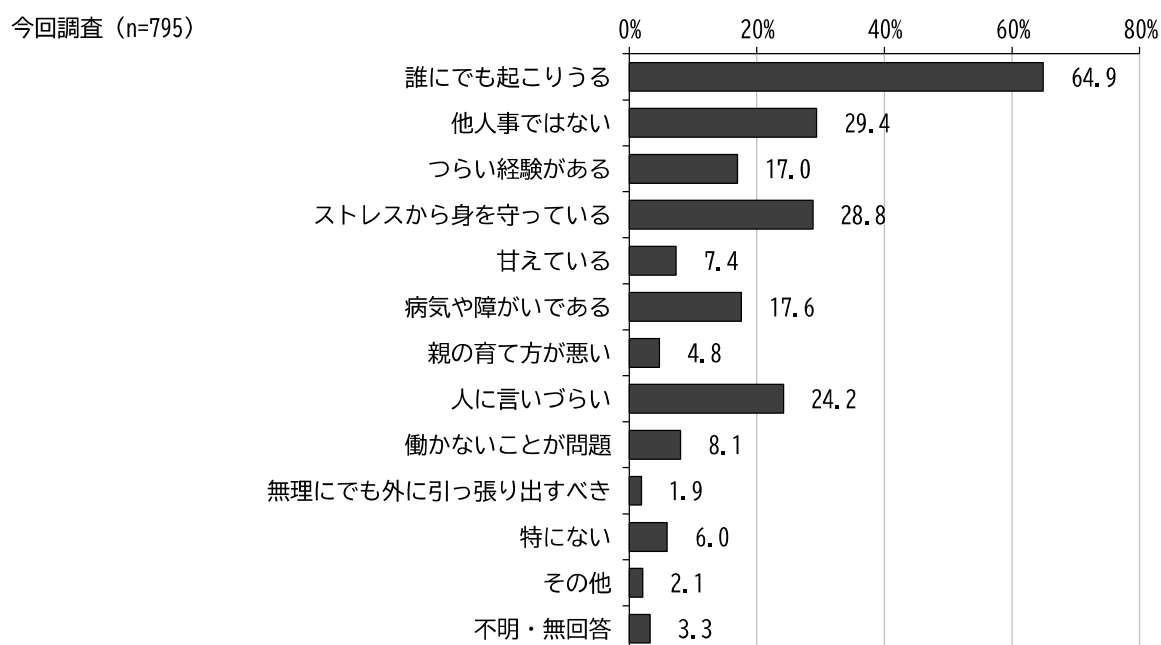


【その他回答】

- ・税の見直し
- ・自立に向けた教育、指導
- ・行政が戸別に対応する
- ・甘えが多い
- ・深く考えられない
- ・障がいのある方と同居している方の意見を最優先にすべきと思う
- ・これもそうならないとお答えする事ができません。状況によって変わりますので

問 32 あなたは「ひきこもり」という状態について、どのような印象や考えを持っていますか。（3つまで複数回答）

ひきこもりについて、どのような印象や考えをもっているかについてみると、「誰にでも起こりうる」が64.9%と最も高く、次いで「他人事ではない」が29.4%、「ストレスから身を守っている」が28.8%となっています。



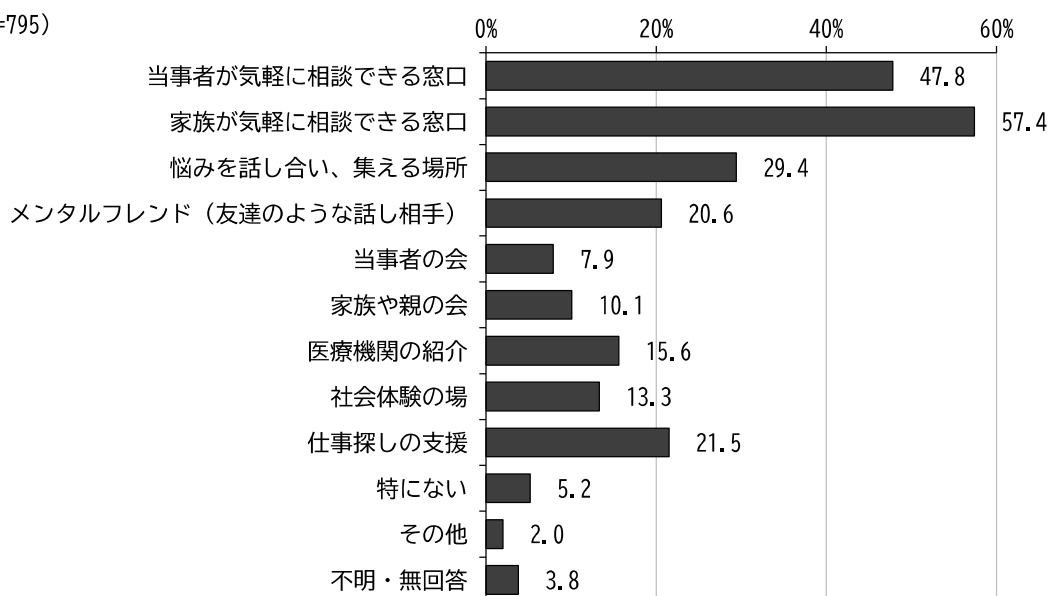
【その他回答】

- ・ わからない（2件）
- ・ 本人と家族の辛さを思う
- ・ 人それぞれで何も言えない
- ・ 気の毒、同情
- ・ 考えることができない
- ・ 当人と環境が合っていない等何らかの事情がある
- ・ 家族の話を聞くなど心のケア
- ・ 生活を自立してできるかどうか。親を含め自分以外の人の支援ありきでのひきこもりは皆不平等である
- ・ 原因は人によって異なるため、当人 家族が信頼できる知見を持った相談先が必要と思う
- ・ 不健康、ビタミンD不足、太陽光浴びて概日リズムを整えるべき。
- ・ 制度はあるみたいです。太宰府市も相談受付されてるみたいですが、どんな感じなのかわかりません

問 33 ひきこもり当事者や家族に対して、行政に取り組んでほしいことは何ですか。
(3つまで複数回答)

ひきこもり当事者や家族に対して、行政に取り組んでほしいことについてみると、「家族が気軽に相談できる窓口」が57.4%と最も高く、次いで「当事者が気軽に相談できる窓口」が47.8%、「悩みを話し合い、集える場所」が29.4%となっています。

今回調査 (n=795)



【その他回答】

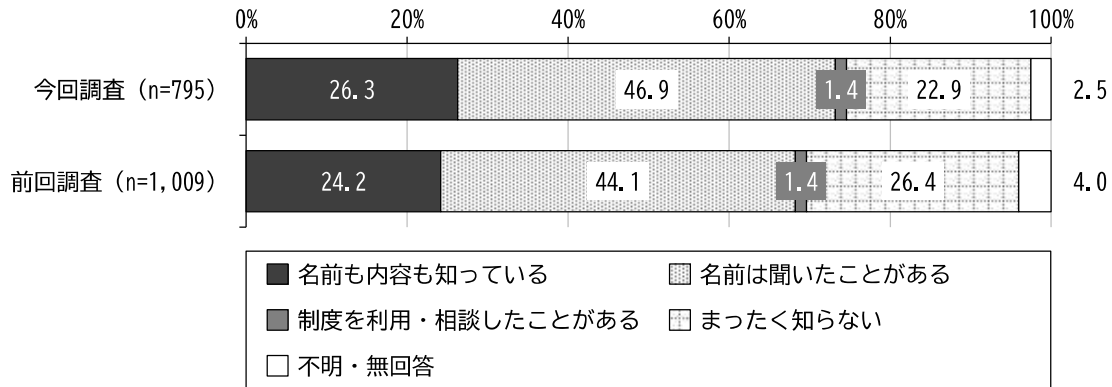
- ・ 行政からの親身なかかわり、公平性
- ・ 行政の直接支援
- ・ 孤独死対策
- ・ ひきこもりから脱した人の情報（体験）拡散
- ・ 自衛隊へ入れろ！
- ・ 専門カウンセラーの設置と派遣
- ・ 深く考えることができない
- ・ 経験がないので、分かりません。
- ・ 教育機会の充実
- ・ ネットなど対面以外の集える場所
- ・ わかりません
- ・ 財政的な支援
- ・ その支援に対する血税の無駄づかいをしないでほしい！
- ・ 適材適所。給与でなくても地域活動に参加すれば住居を提供するなど仕事を創造すること

9 成年後見制度について

問 34 あなたは「成年後見制度」についてどのくらい知っていますか。（単数回答）

成年後見制度」の認知度についてみると、「名前は聞いたことがある」が 46.9%と最も高く、次いで「名前も内容も知っている」が 26.3%、「まったく知らない」が 22.9%となっています。

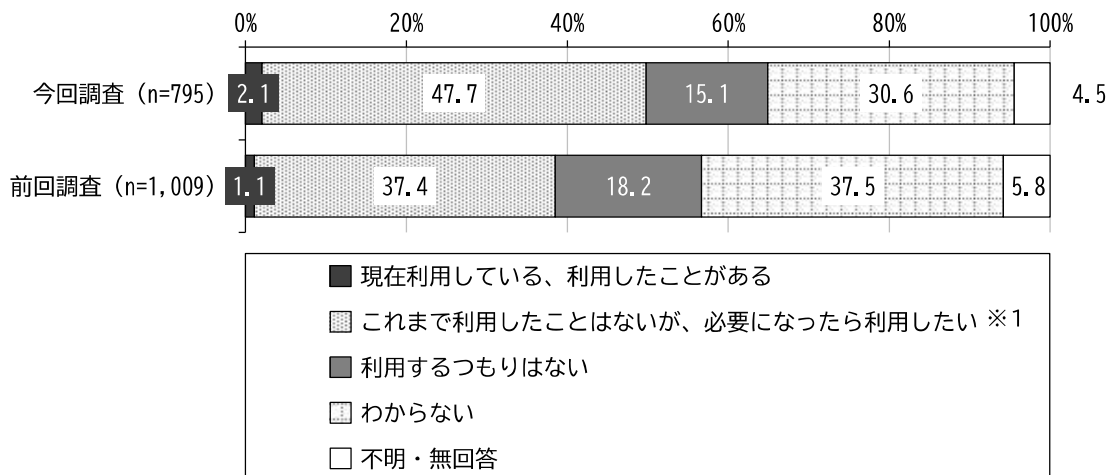
前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



問 35 今後あなたやあなたの家族が認知症などにより判断する力が衰えたとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。（単数回答）

あなたやあなたの家族が認知症などにより判断する力が衰えたとき、成年後見制度を利用したいかについてみると、「これまで利用したことはないが、必要になったら利用したい」が 47.7%と最も高く、次いで「わからない」が 30.6%、「利用するつもりはない」が 15.1%となっています。

前回調査と比較すると、「これまで利用したことはないが、必要になったら利用したい」が 10.3 ポイント増加、「わからない」が 6.9 ポイント減少しています。



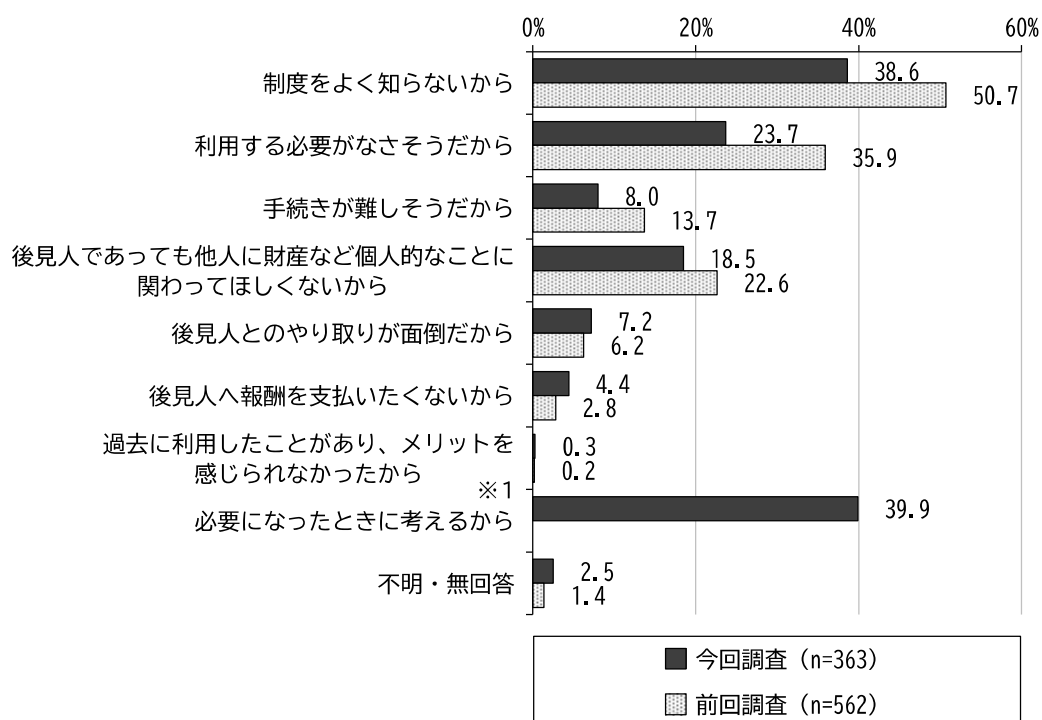
※1 前回調査では「これまで利用したことはないが、今後利用したい」。

問 35 で「利用するつもりはない」「わからない」を選択した方のみ

問 35-1 その理由は何ですか。（複数回答）

成年後見制度を利用しない理由についてみると、「必要になったときに考えるから」が 39.9%と最も高く、次いで「制度をよく知らないから」が 38.6%、「利用する必要がなさそうだから」が 23.7%となっています。

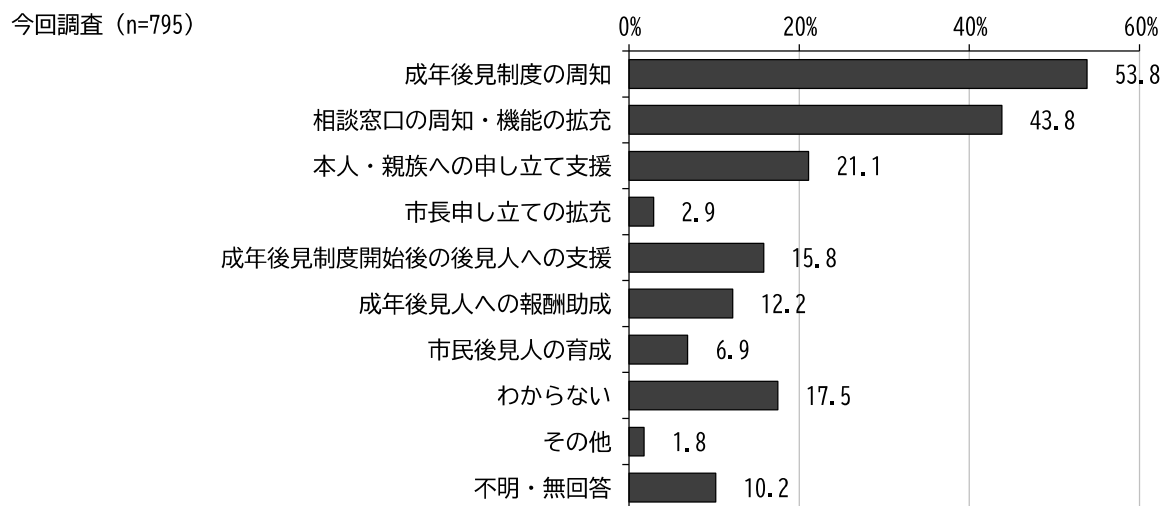
前回調査と比較すると、「制度をよく知らないから」が 12.1 ポイント、「利用する必要がなさそうだから」が 12.2 ポイント、「手続きが難しそうだから」が 5.7 ポイント減少しています。



※1 今回調査のみの選択肢。

問 36 成年後見制度の利用促進のために、どのようなことが必要だと思いますか。
(複数回答)

成年後見制度の利用促進のために、必要なことについてみると、「成年後見制度の周知」が 53.8%と最も高く、次いで「相談窓口の周知・機能の拡充」が 43.8%、「本人・親族への申し立て支援」が 21.1%となっています。



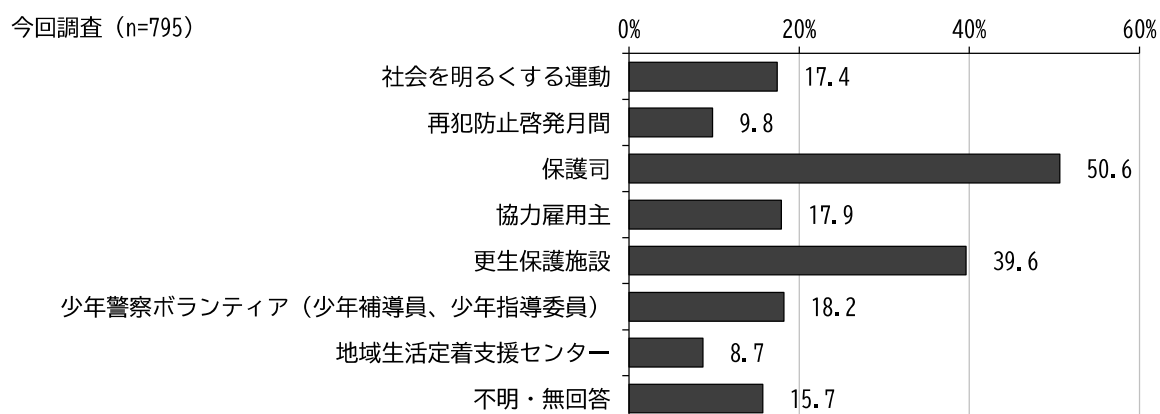
【その他回答】

- ・使い込み注意
- ・制度の根本的な見直し
- ・悪用の監視が不可欠
- ・後見人であっても他人に財産など個人的なことに関わってほしくない
- ・介護する家族と本人の権利のバランスを整え、使いやすくする
- ・病院受診して診断書を取得するまでのハードルが高い（本人…行けない、行きたくない・家族…連れて行けない）
- ・一度決めて実施すると変更できないなど問題が多い。現状の中で行政がこの制度を勧めるのは問題ある。過去に母の問題で裁判所に相談しても冷たい対応なのでやめてよかったと思う
- ・不信やトラブルを防ぐために当事者と後見人との信頼関係の構築が大切だと思うが、問題が起きたときに保障してくれる制度が必要だと思う。仲が良かった友人や親戚でもお金がからむと人間性が変わってしまったり関係にひびが入ったりする悲しい現実があるので。後見人の活動を税理士等のプロが見守ってもよいと思う
- ・プライバシーの保護、財産の保護を徹底する
- ・デメリットも知らせるべき。

10 再犯防止について

問 37 あなたが知っている再犯防止に関する取り組みや民間協力者を教えてください。
(複数回答)

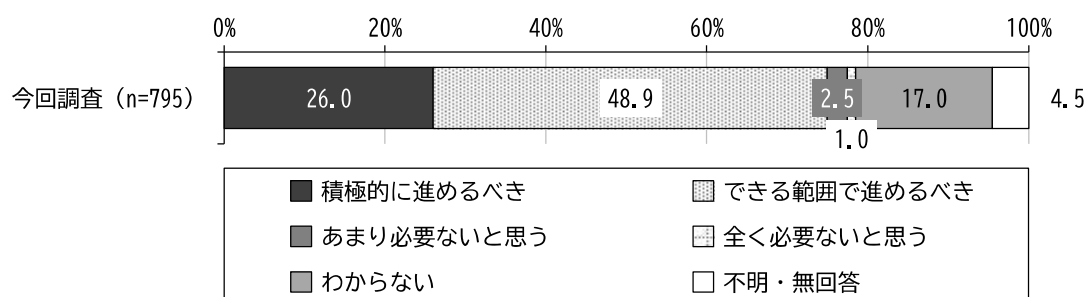
知っている再犯防止に関する取り組みや民間協力者についてみると、「保護司」が 50.6%と最も高く、次いで「更生保護施設」が 39.6%、「少年警察ボランティア（少年補導員、少年指導委員）」が 18.2%となっています。



問 38 地域で、立ち直りをめざす人の再出発を支える取り組みについて、どのように考えますか。(単数回答)

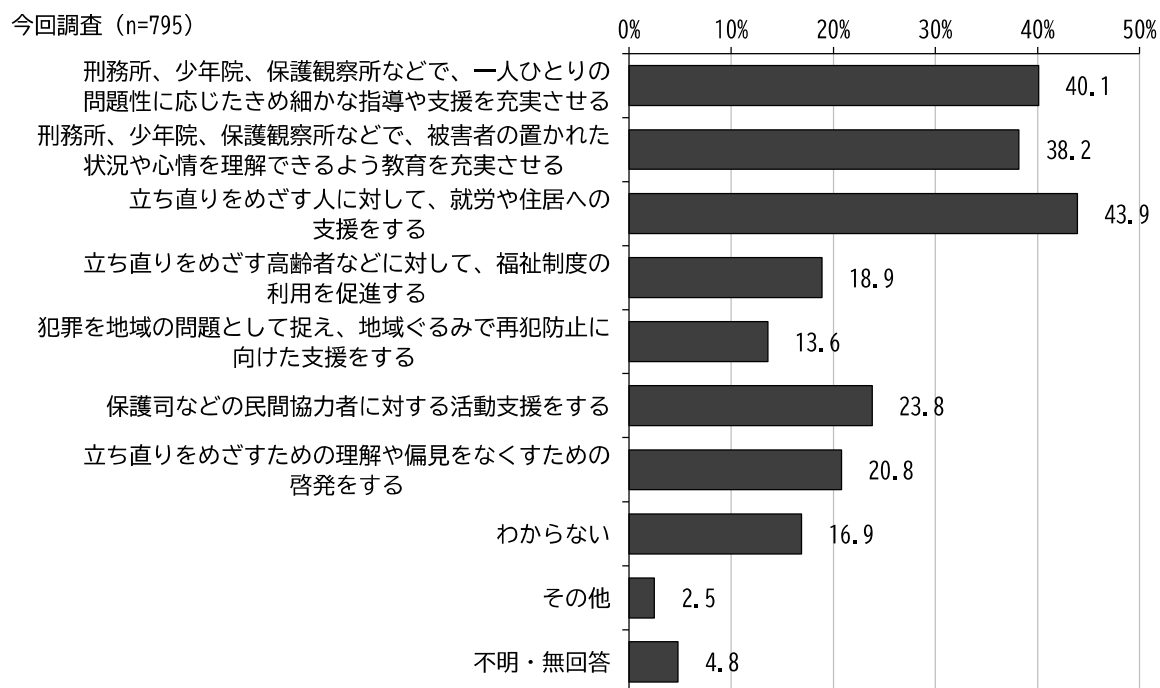
立ち直りをめざす人の再出発を支える取り組みについてみると、「できる範囲で進めるべき」が 48.9%と最も高く、次いで「積極的に進めるべき」が 26.0%、「わからない」が 17.0%となっています。

性別・年齢別・地区別にみると、すべての区分で「できる範囲で進めるべき」が最も高くなっています。



問 39 あなたは再犯防止のためには、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。
(複数回答)

再犯防止のために具体的に必要なことについてみると、「立ち直りをめざす人に対して、就労や住居への支援をする」が 43.9%と最も高く、次いで「刑務所、少年院、保護観察所などで、一人ひとりの問題性に応じたきめ細かな指導や支援を充実させる」が 40.1%、「刑務所、少年院、保護観察所などで、被害者の置かれた状況や心情を理解できるよう教育を充実させる」が 38.2%となっています。



【その他回答】

- ・ 刑罰の強化
- ・ 支援という名の無駄な血税づかいはやめてくれ！
- ・ GPS 監視
- ・ 再犯を防止することは難しく、GPS チップ追跡装置を活用する
- ・ 犯罪は心の病だとも思うので、犯罪に行動しない考え方を教育してほしい
- ・ 一生犯罪の責を負わせるために GPS 埋め込みなど日本版 DBS 推進。まともな人間が馬鹿を見る社会はもうたくさん
- ・ 刑務所、少年院、保護観察所は更生を目的とするところでありながら矯正プログラムが任意だったりするので義務にして自己啓発や自己分析等精神的サポートを充実させるべきだと思う。ただ、施設に閉じ込めて反省を促しても己ひとりで反省することは無理なんじゃないかと思う。反省できる能力がある人は犯罪を犯さない
- ・ 犯罪に至るまでの過程に問題があると思うので、まずは犯罪者にならないための教育、家庭環境の改善が必要だと思う
- ・ 犯罪の内容によっては、被害者も同じ地域だった場合とかは元の地域ではない方が良いのではないかとともに思います
- ・ 犯罪を未然に防ぐために性教育の徹底を指導して繰り返す犯罪者の開示を TV やネット公開して行き非情な展開する。
- ・ 1 度犯罪を犯した人はなかなか社会復帰できないと思ってます。社会に復帰させる必要もなく、表舞台から消えてしまえって思ってます。
- ・ 加害者がいるということは被害者がいる。被害者がおった心や体の傷を十分に理解し、反省するところが一番重要。
- ・ そもそも再犯防止の抑止力を考えるならば、再犯した際の罪の重さを 2 倍にし、実名公表すべき。誰でもなんでも立ち直らせるという社会の甘さが犯罪を助長し、治安を悪化させている事にそろそろ気がついた方が良いでしょう。
- ・ くり返す犯罪者は監視してほしい
- ・ 氏族メシアーに一任する
- ・ 保護司の報酬を上げる

太宰府市の地域福祉に関する
アンケート調査
結果報告書

発行：太宰府市 健康福祉部 福祉課 福祉政策係
電話（代表）：092 - 921 - 2121（内線 363）
FAX：092 - 925 - 0294

発行年月：令和 8 年 3 月